

2020(令和2)年度

甲南女子大学

教職課程年報

甲南女子大学 教職支援課

目 次

1. 2020(令和2)年度動向

(1) 本学教職課程・保育士課程	3
(2) 教職課程履修者数	4
(3) 介護等体験者数	4
(4) 教育・養護実習生数	5
(5) 保育実習生数	6
(6) 教員免許状取得者数（一括申請）	7
(7) 学校教員および保育士就職状況	8

2. 学内開講講座の実施状況

(1) 幼保実践講座の実施について	9
(2) 教員採用試験・公立幼保採用試験対策講座の実施について.....	10

3. 教員免許状更新講習の実施について

4-1. 各種体験記（総合子ども学科-幼稚園課程、小学校課程、保育課程）

◇ 教育実習の感想・反省 総合子ども学科 藤井 洋美.....	11
◇ 教育実習の感想・反省 総合子ども学科 三村 真由.....	13
◇ 教育実習の感想・反省 総合子ども学科 畑 江里奈.....	14
◇ 教育実習の感想・反省 総合子ども学科 吉田 茉那.....	16
◇ 合格体験談 総合子ども学科 金井 萌乃.....	18
◇ ピンチをチャンスに 総合子ども学科 岡田 菜穂.....	20
◇ 教員を目指す皆様へのメッセージ 総合子ども学科 正木 里奈.....	22
◇ 教員を目指す後輩へのメッセージ・アドバイス 総合子ども学科 高田 真衣	24

4-2. 各種体験記（日本語日本文化学科-中高課程）

◇ 合格体験記 日本語日本文化学科 石垣 優香.....	26
------------------------------	----

4-3. 各種体験記（看護学科-養護教諭課程）

- ◇ 養護実習体験レポート 看護学科 中島 侑樺..... 29
- ◇ 目指す養護教諭像と学校で求められる力について
看護学科 赤松 風音..... 31
- ◇ 目指す養護教諭像と学校で求められる力について教諭像と学校で求められる
力について
看護学科 松尾 萌..... 33
- ◇ 目指す養護教諭像と学校で求められる力について
看護学科 三上 紗緒里..... 35
- ◇ 養護実習を終えて 看護学科 齋藤 紬..... 37
- ◇ 養護実習を終えて 看護学科 柴田 菜摘..... 43
- ◇ 養護実習を終えて 看護学科 伊藤 早映..... 53

5. 特別寄稿 看護リハビリテーション学部看護学科 林 照子 准教授

- ◇ 看護リハビリテーション学部看護学科 FD 研修会報告資料
看護学科 林 照子 准教授..... 60

6. 教職支援課の概要

- ◇ 教職支援課の体制について..... 65
- ◇ 教職支援課の利用について..... 65

7. 教員の養成の状況についての情報

- ◇ 教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関する事..... 66
- ◇ 2020(令和2)年度 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する
学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関する事..... 69
- ◇ 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取り組みに関する事..... 70

1. 2020（令和2）年度動向

(1) 本学教育課程・保育士課程

本学教職課程・保育士養成課程において、取得可能な教員免許状・資格は、以下の通り。

<学部>

学部・研究科	学科・専攻	取得可能な免許状・資格
文学部	日本語日本文化学科	中学校教諭一種(国語)
		高等学校教諭一種(国語)
	英語文化学科	中学校教諭一種(英語) 高等学校教諭一種(英語)
国際学部	国際英語学科	中学校教諭一種(英語)(※2) 高等学校教諭一種(英語)(※2)
		中学校教諭一種(英語)(※1) 高等学校教諭一種(英語)(※1)
人間科学部	心理学科	中学校教諭一種(社会)(※2) 高等学校教諭一種(公民)(※2)
		幼稚園教諭一種 小学校教諭一種 保育士
	文化社会学科	中学校教諭一種(社会)(※2) 高等学校教諭一種(公民)(※2)
		生活環境学科
看護リハビリテーション学部	看護学科	養護教諭一種
医療栄養学部(※1)	医療栄養学科	栄養教諭一種

※1 2018年度に学部学科を開設。

※2 2019年度生から廃止。

<大学院>

研究科	専攻・コース	取得可能な免許状	
人文科学総合研究科	言語・文学専攻	日本語日本文学コース	
		英語英米文学コース	
	心理・教育学専攻	心理学総合コース	高等学校教諭専修(公民)※
		臨床心理学コース	高等学校教諭専修(公民)※
		人間教育学コース	幼稚園教諭専修 小学校教諭専修
	社会・文化環境学専攻		中学校教諭専修(社会)※ 高等学校教諭専修(公民)※

※ 2019年度生より廃止

(2) 教職課程履修者数

各学部学科の1年次に『教職論』を履修しながら「本当に教師に向いているのか？」
「本当に教師になりたいのか？」等、教職課程の履修についてよく考え、2年次から本格的に教職課程の履修を開始する。下表に科目等履修生は含まない。

<学部>

学部	学科	1年次(※1)	2年次	3年次	4年次	合計
文学部	日本語日本文化学科	17	14	10	8	49
	英語文化学科	-	-	7	3	10
	多文化コミュニケーション学科	-	-	0	3	3
国際学部	国際英語学科	9	3	-	-	
人間科学部	心理学科	-	-	2	3	5
	総合子ども学科	151	172	170	134	627
	文化社会学科	-	-	3	2	5
	生活環境学科	-	-	0	0	0
看護リハビリテーション学部	看護学科	26	22	18	14	80
医療栄養学部	医療栄養学科	32	8	5	-	45
計		235	219	210	167	824

※1 1年次の履修者数については、幼稚園・小学校課程は免許状取得希望調査の結果に基づき、中学校・高校・養護教諭課程は授業「教職論」履修者数に基づく。

※2 医療栄養学科は2018年度開設のため4年生該当者なし。

(3) 介護等体験者数

2019年度は、コロナウイルスの影響により、代替措置となり、実際の体験を実施することが出来なかった。

学部	学科	特別支援学校	社会福祉施設
文学部	日本語日本文化学科	8	8
	英語文化学科	7	7
	多文化コミュニケーション学科	0	0
人間科学部	心理学科	2	2
	総合子ども学科	79	79
	文化社会学科	3	3
	生活環境学科	0	0
合計		99	99

(4) 教育・養護実習生数

<学部・学科別>

学 部	学 科	幼稚園	小学校	中学校				高校				実習生数
				国語	英語	社会	養護	国語	英語	社会	養護	
文 学 部	日本語日本文化学科			3				7				10
	英語文化学科				2				1			3
	多文化コミュニケーション学科				3							3
人間科学部	心理学科					2				1		3
	総合子ども学科	112	37									149
	文化社会学科					1				1		2
	生活環境学科											0
看護リハビリテーション学部	看護学科		10				4				2	16
合計		112	47	3	5	3	4	7	1	2	2	186

※中高一貫校に教育実習の場合は、中学、高校ともに数に含んでおります。

<地域別>

都道府県	幼稚園	小学校	中学校	高校	養護	合計
京都府		1	1	1		3
大阪府	41	14	3	5		63
兵庫県	58	18	3	3	5	87
奈良県	5				9	14
和歌山県			2			2
島根県	2					2
岡山県		1	1			2
広島県	1	1				2
山口県	2					2
徳島県		1				1
香川県	2					2
愛媛県		1				1
高知県	1					1
熊本県				1		1
宮崎県			1			1
合計	112	37	11	10	14	184

※看護学科は左図では中高一貫はダブルカウントだが、こちらでは区分けしていないため。

(5) 保育実習生数

保育実習ⅠA・ⅠBでは、近畿地方を実習地と限定している。

保育実習Ⅱ・Ⅲでは、卒業後に保育士としてUターン就職を希望する学生について、

保育士養成課程の担当教員と面談を実施した上で近畿圏外での実習を認めている。

<学年別>履修者数

履修者	保育実習ⅠA	保育実習ⅠB	保育実習Ⅱ	保育実習Ⅲ	合計
総合子ども学科2年	96	97			193
総合子ども学科3年					0
総合子ども学科4年			78	21	99
計	96	97	78	21	292

<地域別>実習件数

地域	保育実習Ⅰ (保育所)	保育実習Ⅰ (施設)	保育実習Ⅱ	保育実習Ⅲ	合計
福井県				1	1
京都府			1	2	3
大阪府	31	41	33	9	114
兵庫県	60	55	35	8	158
奈良県	4	1	5	1	11
和歌山県	1		1		
広島県			1		
香川県			2		2
計	96	97	78	21	292

※保育実習ⅠA・ⅠBについては、原則、2年次に1名の学生がⅠAとⅠBの2科目を履修し、2ヶ所で実習を行う。

(6) 教員免許状取得者数（一括申請）

本学教職課程における、2020年度学部卒業生の免許取得状況は、取得件数の合計が248件、取得者数の合計が168名となっている。また、保育士資格取得者数は98名である。

（参考…前年度実績：免許状取得件数290件/取得者数198名，保育士資格107名）

<学部>

学部	学科	中学校一種				高等学校一種				幼稚園一種	小学校一種	養護一種	教員免許取得件数	実人数	保育士資格
		国語	英語	社会	計	国語	英語	公民	計						
文学部	日本語日本文化学科	8			8	8			8				16件	8名	
	英語文化学科		3		3		3		3				6件	3名	
	多文化コミュニケーション学科		3		3		3		3				6件	3名	
人間科学部	心理学科			3	3			3	3				6件	3名	
	総合子ども学科									134	62		196件	135名	98名
	文化社会学科			2	2			2	2				4件	2名	
	生活環境学科														
看護リハビリテーション学部	看護学科											14	14件	14名	
計		8	6	5	19	8	6	5	19	134	62	14	248件	168名	98名

<大学院>

研究科	専攻	中学校専修				高等学校専修				幼稚園専修	小学校専修	教員免許取得件数	教員免許取得者数
		国語	英語	社会	計	国語	英語	公民	計				
人文科学総合研究科	言語・文学専攻												
	心理・教育学専攻												
	社会・文化環境学専攻												
計					0				0				

※いずれも、個人申請件数は含めない。

(7) 学校教員および保育士就職状況

<公立学校教員・保育士>

学 部	学 科	雇用 形態	教員就職者数				保育士
			幼稚園	小学校	中学校	高等学校	保育園
文 学 部	日本語 日本文化学科	教諭			1		
		講師					
	英語文化学科	教諭					
		講師					
人間科学部	多文化 コミュニケーション学科	教諭					
		講師					
	心理学科	教諭					
		講師					
総合子ども学科	教諭	1	12			1	
	講師	2	9				
文化社会学科	教諭						
	講師						
生活環境学科	教諭						
	講師						
看護リハビリ テーション学部	看護学科	教諭					
		講師					

<私立学校教員・保育士>

学 部	学 科	雇用 形態	教員就職者数				保育士
			幼稚園	小学校	中学校	高等学校	保育園 (施設含む)
文 学 部	日本語 日本文化学科	教諭					
		講師					
	英語文化学科	教諭					
		講師					
多文化 コミュニケーション学科	教諭						
	講師						
人間科学部	心理学科	教諭					
		講師					
	総合子ども学科	教諭	63				19
		講師	1				
文化社会学科	教諭						
	講師						
生活環境学科	教諭						
	講師						
看護リハビリ テーション学部	看護学科	教諭					
		講師			1		

※幼保連携型子ども園は幼稚園に計上。

※看護学科の1名は中高一貫校

※保育士は、正規採用を教諭の欄に記載し、非正規を講師の欄に記載。

2. 学内開講講座の実施状況

(1) 幼保実践講座の実施について

- ・「赤ちゃん抱っこ・おむつ替え・着替え」については、新型コロナウイルス感染拡大の為対面での講座を行うことができず、1A1Bの実習に行く98名の学生に資料を送付した。

2020年度 幼保実践講座 実施報告

- ・「赤ちゃん抱っこ・おむつ替え・着替え」については、新型コロナウイルス感染拡大の為対面での講座を行うことができず、1A1Bの実習に行く98名の学生に資料を送付した。

	開講日	開講時間	会場	講座名
第1回	10月21日 (木)	12:10~12:55	944 教室 ZOOM	手袋シアターを作ってみよう
第2回	11月19日 (木)	12:10~12:55	944 教室 ZOOM	エプロンシアターを楽しもう
	11月20日(金)	12:10~12:55	944 教室 ZOOM	エプロンシアターを楽しもう

個別対応(学生の空き時間に予約を受けて、対応)

- ・10/27 11/25 12/1 12/2 12/7 12/18 2/18

場所—教職支援課

- ・手袋シアター 8名
- ・エプロンシアター 12名
- ・パネルシアター 1名

(2) 教員採用試験・公立幼保採用試験対策講座の実施について

教員採用試験および公立幼保採用試験の受験を検討している学生に向けた教職課程履修者への支援として、外部業者協力のもと学内で対策講座を開講している。

また、本学では中高希望者対象に、教員を目指す学生たちのグループを立ち上げた。グループを『Teacher's Café』と名付け、英語文化学科・赤井先生のご指導のもと、教員採用試験突破に向けた勉強会を実施。週2回のペースで実施している。

また、コロナ禍であったため、ZOOMで模擬面接、グループディスカッションを行った。

※Teacher's Caféについて、前期は、新型コロナウイルスの影響で、緊急事態宣言が発出されたため実施しておりません。

〈学内講座〉

開催日	内容	対象者
2020年9月30日	Teacher's Café 勉強会	中高教員を志望する学生
2020年10月7日	Teacher's Café 勉強会	中高教員を志望する学生
2020年10月12日	Teacher's Café 勉強会	中高教員を志望する学生
2020年10月14日	Teacher's Café 勉強会	中高教員を志望する学生
2020年10月28日	Teacher's Café 勉強会	中高教員を志望する学生
2020年11月4日	Teacher's Café 勉強会	中高教員を志望する学生
2020年11月9日	豊能地区講師登録説明会	4年生の学生
2020年11月11日	Teacher's Café 勉強会	中高教員を志望する学生
2020年11月18日	Teacher's Café 勉強会	中高教員を志望する学生
2020年11月18日	豊能地区教員採用説明会	1～3年年生の学生
2020年11月30日	Teacher's Café 勉強会	中高教員を志望する学生
2020年12月2日	Teacher's Café 勉強会	中高教員を志望する学生
2020年12月9日	Teacher's Café 勉強会	中高教員を志望する学生
2020年12月16日	Teacher's Café 勉強会	中高教員を志望する学生
2021年2月3日	教員採用試験 学内模試	中高教職課程履修中の3年生
2021年2月5日	合格体験談（オンライン）	総合子ども学科
2021年3月12日	Teacher's Café 勉強会（オンライン）	中高教員を志望する学生
2021年3月25日	Teacher's Café 勉強会（オンライン）	中高教員を志望する学生

3. 教員免許状更新講習の実施について

2020年度（令和2年度）教員免許状更新講習は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、「中止」いたしました。

4-1. 各種体験記（総合子ども学科-幼稚園課程、小学校課程、保育課程）

教育実習の感想・反省

人間科学部 総合子ども学科
藤井 洋美

今回の4週間という期間の幼稚園実習で、私は5歳児クラス担当でした。初めての幼稚園実習を通して、子どもたちとの接し方や実態をたくさん知ることができました。その中で、「保育者が子ども一人一人に合わせた援助・言葉がけをどのように行っているのかを学ぶ」「子どもたちに積極的に関わり、コミュニケーションを図ることを学ぶ」「保育者の援助方法をよく観察し、実際に一人一人に合った援助を実践してみよう」などの目標を自分の中で持ち、実習に取り組みました。

子どもと毎日関わる中で、“この子はこんなことを考えていたんだ” “今、どんな気持ちで過ごしているのだろう” など考えることが出来ました。また、自分が予想していなかった言動があるなど、想像とは異なる毎日で驚きと発見とで溢れていました。

保育者は、子ども一人一人の性格などをしっかりと理解した上で様々な援助・言葉がけを行っていました。このような状況の中で子どもに合わせた援助をするためには、一人一人と、きちんと向き合っていくことが大切であると、改めて感じる事が出来ました。そのために常に子どもの声に耳を傾け、声を聞いてあげる重要性を実感しました。このように毎日子どもたちと遊ぶ・話をするというのももちろん印象に残っていますが、この4週間で行った「音楽発表会の練習」「5回の部分実習」も私にとってとても印象的なものになりました。音楽発表会の練習では、初めは上手に子どもたちに指導できなかったのですが、子どもたちと関わっていく中で、このような声かけ・指導をしたら良いということが分かり、指導に取り組むことが出来ました。日々上達していく姿を間近で見ることができ、嬉しかったと共に子どもの成長は凄いなど、改めて感じる事が出来ました。しかし、昨日まで出来ていたことが急に出来なくなる・意欲が高まらないという状況にも出会いました。そのような時に保育者の援助を見て、保育者の言葉かけの重要性に改めて気づきました。どのようにしたら子どもが意欲を高め活動できるのかを考えさせられました。また、活動へ向かう気持ちの切り替えを常に意識して行うことの重要性も学びました。褒めるという行為はもちろん大事ですが、それにタイミングが大切であり、子どもの状況・気持ちを汲み取りながら行う保育者の姿から学ぶことが出来たと思います。保育者の援助方法次第で子どもの、活動に取り組む姿勢は変わっていくのだなと今回の音楽発表の練習に参加し、新しく学ぶことが出来ました。

部分実習では、自分が想像していなかった子どもの姿が多くあり、指導計画を考える上で色々な状況を想像・予想することで、保育を行っていくことの重要性を知ることが出来ました。子どもたちからは、「凄いね」「今日は何するの」「楽しかったよ」という言葉が聞けて大変嬉しかったです。

活動の中で、子どもたちから助けられることも多くあり、先生がおっしゃっていた

“子どもの声をよく聞く”という大切さを実感しました。周りを見ながらも子どもの些細な声にもっと耳を傾けていこうと感じました。また、部分実習中になった子どもたちの言葉を反省の際に記し、もっとこんな援助を行っていけば良かったと、自分の未熟な点を新たに見つけるが出来ました。今までの実習では1回のみ部分実習でしたが、今回5回部分実習をさせていただいて大変多くのことを学ぶことができました。部分実習を重ねていく上で子どもたちの様子を多く観察でき、次回はこうしてみようなどの改善点が多く見つかりました。自分では気づかなかった点を先生が反省会の際に教えて下さり、実習に活かすことが出来ました。部分実習で、臨機応変に対応していく力・子どもたちからの発言に常に耳を傾けながら対話を楽しんでいく力などが欠けていたと感じました。また、子どもたちの声だけを聞くのではなく、自分の気持ちも言葉で伝えることが子どもたちとの対話を楽しむことに繋がると感じました。

実習の中で、保育者の援助をする姿をたくさん観察でき、実践が出来ました。そして、どうしたら子どもたちが楽しく活動に参加できるのかを考えることの大切さを改めて気付きました。自分の未熟だった点の知ることができ、もっとこうすべきだったということにも、新しく発見することができました。

些細なことでも少しの声かけ・反応を返し、子どもたちの気持ちに気付くことの出来る保育者になりたいと思いました。新しい目標・4週間の実習で見つかった反省点を胸にこれからの大学での学び・実習等に活かしていきたいと思います。

今回初めて幼稚園実習をしました。最初は緊張もあり、4週間という長い間無事に終えることが出来るか不安でした。しかし、そんな不安も優しい先生方や子どもたちのおかげでなくなり、楽しく実習期間を過ごすことが出来ました。

この実習期間中に様々な発見をしました。まずは、子どもたちが外遊びを意欲的に行っていたことです。保育者の言葉掛けによって喜ぶ子どもたちの姿や好きな遊具や遊び道具が多く収納されている倉庫に向かって、一目散に走っていく様子などから、友達と関わりながら体を思いきり動かすことがとても好きだということがすぐに分かりました。では、何故かと要因を考えた時に、保育者の自発的に遊びが出来るように導く環境設定や言葉掛けはもちろん、園庭と言う場所にも子どもたちの楽しさを高める要素が沢山詰まっているなどと思いました。広い園庭に沢山の遊具、そして何と言っても駆け回る事の出来る芝生、畑、砂山等です。外遊びには、トンボやバッタ、ダンゴムシ、蝶々、芋虫等の虫から興味関心が湧いたり、落ちていた花びらや葉っぱ、木の枝等の材料から、発想力を高めてくれると感じました。砂山で掘って見つけた石を恐竜の化石と言ってごっこ遊びに興じたり、マルチパネルを繋げて温泉に見立てて作ったりと色々と考えながら遊びを編み出している様子が見られました。子どもは、私たち大人には想像もできないことを思いつき見ている楽しかったです。外遊びは、室内遊びよりも危険は伴うけれど、その分ダイナミックなことにも挑戦出来る為、自然と思考力がつくと思えました。また、子どもの五感を刺激し、感性を豊かにして過ごすことや体を動かすことの楽しさや喜びを知って味わうことの大切さを知りました。その大切な楽しさや喜びは子どもたちを意欲的にし、結果、体力の向上に繋がっていると思えます。

次に、子どもとの信頼関係を築くことの大切さです。信頼関係が出来ているからこそ、保育者の話をきちんと聞き、子どもたちに伝えたい思いが届いているのだと思えました。実際、私が手遊びや研究保育の際に子どもたちの前に立った時、話を聞いてくれたり興味を持って活動に取り組んでくれたりしたのは、信頼関係が得られていたことだと思っていましたし、担任の先生からも最後にそういう風な言葉を頂いたのでとても印象に残っています。始めは、いつも同じ子どもと遊ぶということにはならないように、あまり子ども自身から来ない幼児には、自ら自然に関わりに行くようにしていました。そうすることで、一人一人の性格や良い所を見つけ、知ることができ、日に日に子どもたちの心を開くことが出来たのかなと思っています。他には、個人個人に合わせた対応、接し方の大切さや子どもの成長は、日々の大切さであるということです。同じクラス、同じ年齢でも発達や成長は様々であることを毎日の園生活を一緒に過ごして改めて感じました。一人の子どもに伝わったことが他の子どもにも同じ言い方で伝わるとは限らない為、その子どもに合わせた言葉掛けや接し方が必要だと思えました。また、一度で伝わらなくても毎日伝え続けたり、子どもを信じて継続した言葉掛けをしたりすることで、保育者の思いが伝わり、成長に繋がるのではないかと思います。

今回、5歳児クラスを担当しましたが、他の園では全く違う様子が見られたと思います。この実習期間で先生や子どもたちの姿を見て経験したことは、とても貴重で多くの学びに繋がりました。クラスの子どもたちに応じた言葉掛けや事の進め方、全体へ目を配る等の細かい反省点を頭に残し覚えておき、この経験を次に生かしたいです。

教育実習の感想・反省

人間科学部 総合子ども学科
畑 江里奈

一ヶ月間の教育実習は、不安や戸惑いから始まり、充実感や教師になりたいと決意を新たにした日々でした。また初めて気づかされたこと、現場を目で見て肌で感じたことは私自身を大きく成長させてくれたものとなりました。

教育実習で得たものとして、まず一つ目に、行動しなければ始まらない、始めなければなにも起きないということです。教師が動かなければ児童は動かないし、児童が動くことによって教師が動かされることがあることを感じました。教師が一人一人に寄り添うとほんの小さなことでも行動することによって、児童はその思いに応えようとしてくれます。実習中に自分が授業をする際、少しでも分かりやすく置いてけぼりの児童が出ないように、そして児童の発言や発表を軸とした主体的で対話的な授業作りをしようとたくさん試行錯誤をしました。すると児童も授業中たくさん発言をしてくれ、真面目に問題にも取り組んでくれました。教師が動くことによって児童の活動が生き生きしたものになると実感しました。また授業以外にも、児童と教師が一心同体になったときに、学級経営や教科指導が上手くいくのではないかと思いました。動くことをためらわず、積極的に行動していきたいと思います。

二つ目に、人間関係の形成はあいさつから始まるということです。あいさつをするという日常行為の大切さを感じました。担任の先生は毎朝元気良く「おはようございます」と教室に入り、児童もそれに元気良く応えます。当たり前の光景ではありますが、このあいさつをするという単純な行為を、日常生活の中で本当に当たり前にできていたかと自身に問い直すことができました。これは教師が積極的にあいさつをしなければならないとか、児童は教師にあいさつをしなければならないとか、先行関係はどちらでもよく、人と会えば自然とあいさつができる状態が当たり前であり、それが人として認めることなのだ気づかされました。

次に教育実習で課題となったことは、授業作りです。それにおいて、児童観によって指導観や教材観が変わるということ。「児童」「教師」「教材」の関係が授業を作る上で基本であることは理解していたのですが、実際それを指導案に盛り込み、授業で形にすることはすごく難しいということに気づきました。授業作りはまず児童の実態があり、その実態に対する教師の思いを教材に反映させて授業を作っていくことで一人一人に寄り添う授業が作られていくと思うので、それを考える時間を作ることがどれほど大変なものであるかを痛感しました。何度も本時を考え直し、それでも上手くいかない授業がほとんどでした。授業時間という制限や、常に変化し動いていく児童の実態をとらえることなど、様々な決まりの枠組みの中で、質の良い授業を目指すことを自身の課題とし、勉強しなくてはいけないと思いました。また、「中心となる問い」を適切に立て、それを援助する掲示物やそれを掲示するタイミング、補助する教科書の扱いなどにもっと注意を払って授業づくりを行うべきだったと反省しています。授業のねらいをしっかりもって、それに沿った掲示物や資料を加えた授業を作っていたら、より良い授業になったと思います。

最後に、この実習中においての実習生ができるチャレンジは、担当教員の協力なしで

はできなかつたと思います。予定通りに授業が進まないかもしれない、これでは上手く児童に伝わらないかもしれないと不安になってしまったときでも、「気にしないで大丈夫」と言っていたいただき、本当に何から何まで自由にやらしていただける環境を作っていたいただきました。授業の振り返りでも長時間のご指導をいただき、本当に心から感謝したいと思います。そして、毎日の生活で児童と関わるのが勉強で、毎日いろいろな表情を見せてくれる児童は本当に可愛らしく、短い期間でしたが、児童との信頼関係を少しではありますが、築くことができたのではないかと思います。思うようにいかず、心が折れそうになることもありましたが、児童の「授業分かりやすかった」「楽しかったよ」の一言にとっても感動し、大きな支えとなりました。実習前より自分自身とても成長することができたと感じています。大好きな地元の小学校で、児童や先生方、担当教員に恵まれ、その中で教師になるための一歩を踏めたことを本当に幸せに思います。この教育実習で学んだことを人生に活かして、将来教壇に戻ってきたいと思います。

教育実習の感想・反省

人間科学部 総合子ども学科
吉田 茉那

4週間の実習期間を通して、たくさんの授業を見せていただき、授業の工夫の仕方や児童との接し方など多くのことを学ぶことができました。授業を観察させていただく中で板書の書き方や児童に対するフォローの仕方に加え、教師の発言中心の授業にならないよう工夫した言葉がけで児童主体の授業作りの仕方など先生方の授業を見て知ることができました。しかし、実際に授業をすると指導案通りにすることで頭がいっぱいになってしまい話の長さやスピードが速すぎて指示が上手く通らないことや予想していない答えが出てきて対応に困ってしまうなど失敗の連続でした。授業の後の振り返りの時間には授業をしていると自分では気付いていなかったところや改善点などを丁寧に指導していただき、指導案を作ることが全てではなく、その指導案でどのように授業を進めていくのか具体的な言葉がけを考えながら授業をイメージし、児童が興味を持てる内容であるのかを考えていくことが大切だと分かりました。実習中に9回授業をしたことで、授業前には目標を1つ決めて意識していくことで研究授業ではこれまでの反省点を改善することができていたと褒めていただくことが出来ました。授業作りの難しさを感じましたが、児童の姿を思い浮かべながら授業を考える楽しさや一生懸命発表する児童の姿を見てやりがいを感じ、より良い授業ができるようになりたいと思いました。

教育実習中は、授業だけでなく「小さな旅」や「スポーツフェスティバル」の行事や休み時間など児童とたくさん関わることができました。教師は行事では、児童が協力して考えて行動できるように見守る、児童の安全に気をつけて行動するなどその時々場面や状況を判断して関わることや広い視野を持って行動することの大切さが分かりました。休み時間には、児童と一緒に輪車の練習をしました。一人ひとりの気持ちに寄り添い、丁寧にアドバイスすることを意識して関わりました。バランスを崩しそうになった時には手を差し伸べるなどしてケガのないようにすることで安心して一生懸命練習し、できるようになり嬉しそうにしている姿を見ることができました。児童から「教えてくれてありがとう。」という言葉をかけてもらい、改めて児童の成長に関われることのやりがいを感じました。このことから、授業中には見ることでできない児童の表情や姿をたくさん見ることができ、授業中だけでなく、休み時間など児童と関わることができる時間は積極的に関わることで児童理解を深める上で大切だと感じました。

今後の課題だと感じたことは授業作りです。先生からのアドバイスをいただきながら作成した掲示物を用いて行った研究授業では学習内容は少し難しいところではありましたが、多くの児童が興味を持って一生懸命取り組んでくれました。その児童の姿を見て学習内容を伝えることだけに集中するのではなく児童の学習意欲を引き出せるような工夫や言葉がけを考えることを意識して授業を作っていけるようにしたいと思います。また、実習中、障害を持った児童と過ごす中で、他の児童と同じことをしたいとよく話していたことから例えば体育授業の中では協力して何かをやり遂げるような活動を、道徳授業では上手く表現できなくてもみんなの考えが共有できるような少

人数のグループ活動を取り入れるなど工夫した授業が行えるようになりたいと思いました。

最後に、この4週間の実習において児童一人ひとりの小さな成長を見ることができ、児童と関わった時間はたくさんの時間はあっという間でしたが、とても楽しく過ごすことができました。私も先生方のように小学校の先生として働きたいという気持ちをさらに高めることができました。この実習を通して学んだ一人ひとりの児童についてよく理解した上で関わることの大切さ、授業づくりでは、導入で児童が興味を持てるきっかけ作り、学ぶ楽しさを伝えることができる指導の工夫を学びました。今後は実習校の先生方のような教員になれるように教育実習で学んだことを活かして頑張りたいと思います。

合格体験談

人間科学部 総合子ども学科
金井 萌乃

私は、この春から茨木市の公立幼稚園で働かせていただく事になりました。参考になるかは分かりませんが、私が合格するまでのありのままを皆様にお伝えできたらと思います。

私は、小さい頃からずっと幼稚園教諭になりたいと言う夢がありましたので、甲南女子大学に入学をしました。初めて公立の幼稚園の事を知ったのが大学1回生の時で、その時はまだ特に公務員について意識はしておらず、受験しようとも思っていませんでした。その後、大学3回生になり、11月頃に大学で公立の試験内容の模擬試験が行われると知り、少し公気になっていたので受けてみようと思いました。この模擬試験は実際に本当の試験内容に似た問題になっていて、また今の自分のレベルや得意不得意なども分かるようになっていました。そのため結果が自信に繋がり、実際に公立の試験を受けてみようと思うきっかけになりました。

いざ就活の時期が近づいた時に、経験として一般企業も受けてみようという気持ちになり、2月から企業ガイダンスへの参加やSPIの勉強を始めました。そして公務員の試験である専門試験などは、(これは遅いと思いますが)試験日の1ヶ月前から始めました。勉強を始める時期は早いに越した事がないと思うので、出来るだけ早く始めた方が余裕があって良いと思います。専門試験を勉強してみて感じたことは、どれも一度は授業で聞いた事があると言う内容でした。そのため日々の授業の大切さも改めて感じました。一次試験を終えて、二次試験は作文や実技、面接などを2日にかけて行われました。作文は、記述形式などは作文の対策の本を見て記述する形式を覚え、内容はどの内容がくるかは分からないため、「この題がきたらこう答える」というのをあらかじめある程度考えておきました。面接も同じで、何を質問されるかは当日までわからないので、よく聞かれる内容や「実際に市の職員になった際には自分は何ができるか」など、聞かれやすい質問を一度考えて自分の意見を文にして整理する対策をしました。面接の練習は、4回生の前期にあった「幼保実践演習Ⅱ」という授業で練習をしました。この授業は先生方に面接官になってもらい質問に答えるというもので、アドバイスを頂けたり、他の友達の意見や面接を見ることができたりと、オンラインでの授業でしたが、とても充実した内容で、面接対策にはおススメの授業です。実技の対策は、事前に昨年の実技の内容を教職支援課の方に教えて頂き、より具体的な対策をすることができました。私の受けた試験では、「指導案を穴埋め形式で作成」や「歌詞カード作成」「ピアノ」「表現」「素話」など様々な試験がありました。実際に実技を受けて、思っていたよりも様々な内容の試験が多くて、対策ができていた事やできていなかった事などもありました。受けてみようかなと思っている皆様も、こんなにもしなければならぬのかと不安になる人もいると思います。しかし、私自身もその時はやるしかないと思ってとにかく全力で取り組むことを意識しました。その結果、面接官の方は「できる出来ない」ではなくて、「頑張っている姿」を見てくれたのではないかと感じました。そのため、もちろん対策も大切ですが、あまり考えすぎずにリラックスをして「自分が出せるものを出し切る」ということを意識した方が気持ち的にも楽ではないかと思っています。

大学生活や就職活動などで様々な経験をしましたが、やはりどの経験も活かせる場所があるし、どの経験も無駄ではないなと思いました。日頃の授業や日々の何気ない積み重ねが自分の強みになり、個性にもなると思うので、皆様も思い切って様々なことに挑戦をして、後悔のない大学生活や就職活動をしてほしいと思います。

そして悩むことや立ち止まる事があれば、周囲の人や大学の先生、教職支援課やキャリアセンターなど様々な人にアドバイスをもらい、相談をして、サポートをしてもらうことも大切なことであると感じます。何より不安もあるとは思いますが、まずは挑戦！という気持ちで試験に挑んでほしいと思います。結果はどうかあれ経験としては確実に良いものになるので良い結果ではなくても、また次に生かす！くらいの明るい気持ちで頑張ってください。

最後に、お役に立てたかはわかりませんが、この体験記を読んで少しでも参考になり、頑張ろうと思っていただけたなら幸いです。応援しています！

ピンチをチャンスに

人間科学部 総合子ども学科

岡田 菜穂

実習が終わった3回生の10月。教員になりたい思いはさらに強まり、教員採用試験の勉強と実際の現場での経験を積みたいと思いました。そこで、スクールサポーターとしてのボランティアを始めました。ボランティアでは、様々な子どもとの関わりから学べることや先生方の授業から学べることがたくさんあり、模擬授業の参考、面接でのネタになりました。何より子どもと共に過ごす中で子どもの成長に携わることによりやりがいを感じ、さらに教員になりたいと強く思いました。1月から本格的に教員採用試験に向けての勉強を開始し、大学の図書館で勉強したり、東京アカデミーの講座を受けたり、大学での集中講義に参加したりし、いよいよ私たちも教員に向けての勉強が始まったなと実感していました。

そんな中、3月になりコロナウイルスの影響で突然状況は大きく変化しました。大学に行けない、先生から対面の指導を受けられない、スクールサポーターのボランティアに行けない、図書館、カフェでの勉強もできなくなりました。さらに、試験内容の変更も相次ぎ大きな不安に駆られました。

4月、緊急事態宣言が全国に発令され、一人で毎日勉強することに限界を感じていました。そんなある日、同じ夢を持つ仲間からLINEが来ました。「今日から毎日10時間勉強しよう。勉強時間を測って毎日連絡しあおう。」このメッセージを受けて、「私だけが苦しいのじゃない。周りの仲間も同じように努力している。」ということに気付かされました。同じ夢を持ち努力する仲間の存在に励まされ、みんなで戦えば乗り越えられると奮起しました。そこから、毎日友人と連絡を取り、励まし合い試験対策により一層打ち込むことができました。また、「今月は全科を一通り終わらせる。」など具体的に毎月の目標を立てて勉強に取り組んだり、1日の試験対策の流れを時間割にして作成し取り組んだりするなど、見通しを持って計画的に勉強を進めることで充実した日々を送ることができました。対面ではできない面接練習も、先生方が協力してくださりzoomを使って取り組み、仲間とも時間を合わせて何度も面接、討論、模擬授業の練習をしました。論文や出願用紙もメールで丁寧に対応していただき、コロナ禍での不便を何一つ感じることなく進めることができました。

予想外の事態が起こり不安なこともたくさんありましたが、良き仲間、熱心に指導してくださる先生方に支えられ最後まで乗り越えることができました。こんな状況だったからこそ、みんなで力を合わせて頑張ろうという結束力も高まったと思います。どんな状況におかれても、諦めずに様々な方法を模索して前に進んでいったことが合格に繋がったと思います。そして何より、周りの方々の助けや支えがあったからこそ成し遂げられました。苦楽を共にした仲間は私にとって永遠の財産です。

皆さんも一人でどうにかしようとするのではなく、仲間や先生方を最大限に頼って周りの人を巻き込んでみんなで合格に向かって努力してほしいです。「怠るものは不満を語り、努力するものは夢を語る。」どんなピンチでもチャンスに変えて前向きに頑張してほしいと思います。

最後になりましたが、熱心にご指導してくださった先生方、本当にありがとうございます

ました。4年間の学びを軸として、どんな状況でも前向きに、様々なことに挑戦し成長し続けていきます。

教員を目指す皆様へのメッセージ

人間科学部 総合子ども学科

正木 里奈

4月から、大阪市の私立幼稚園の教員になります。現在、私はずっとなりたかった幼稚園教諭になることへの期待と少しの不安を胸に抱きながら残りの学生生活を過ごしております。今回は私からのメッセージで少しでも皆さんの参考になるものがあれば嬉しく思います。

幼稚園教諭、保育士は、ピアノ・歌・制作・絵を描くこと・人前で話すこと等のあらゆるスキルが求められています。私はこの中で特に、ピアノと、人前に出て話すことが苦手でした。

ピアノは中学生まで一切触れてこなかったもので、全く音符も読めないし弾き歌いなんて無理！という状態でした。もし、これを読んでいる方が今ピアノを苦手だと感じておられてもきっと大丈夫です。大学でもピアノの授業があり先生方が丁寧に教えて下さるので、練習すれば絶対に弾けるようになります。私も中学三年生からのかなり遅めのスタートでしたが、今は弾き歌いも子どもの前で弾けるようにまでになりました。

以下で、大学に通っていた時にやっていた良かったことを紹介します。それは大学の授業の前や昼休みを使って、5号館や10号館にあるピアノレッスン室を利用することです。幼稚園・保育園ではどのタイプのピアノが置いてあるか分かりませんし、採用面接の試験のときにもすぐに対応できるようにするためです。色々なタイプのピアノ（アップライトピアノ、グランドピアノ、電子ピアノ）に触れる時間や機会は多い方が良いと思います。甲南女子大学にはたくさんの種類のピアノが何台も揃っています。

さらに私は人前に立って話すことがとっても苦手でした。前に立つことが恥ずかしく、すぐ顔が赤くなってしまったり、声が急に出なかったり、「本当に自分に向いている仕事なのか」「先生になれるのかな」とすごく悩みました。私はこれらを改善するために他大学のよさこいサークルに入りました。よさこいは、声を出しながら体を動かすことや、皆で舞台上に立ち演舞を披露します。もともと踊ることは好きだったので、サークルをしているときは自分を表現できました。また、そこでは、思い切り自分を表現しないと目立ち、恥ずかしかっていたら余計に恥ずかしい思いをすることを学びました。私もまだまだ子どもの前や人前で話すことは緊張しますが、堂々とするのを意識していると恥ずかしいと思うことは無くなりました。また、大勢の園児の前で話すことも少しずつ慣れてきたことを実感しています。ぜひ、自分の好きなことを見つけ、それを人に表現する。普段から人前に立つ経験を自分から作っていくことを実践してみてください。

さらに幼稚園実習でお世話になった先生がおっしゃっていたことを皆様にもお伝えしたいと思います。それは「模擬緊張する時間を作る」ということです。これは何度も実践していますが、効果がありとても良かったです。例えば、ピアノを弾いているところを誰かに弾いてもらう、録音してみる。あえて、授業で発表役を引き受けてみるなどです。そうすると大事な本番のときは「これだけやったから大丈夫」と思うこと

ができ、程良い緊張の中絶対に上手くいきます。

これから教員を目指すという素敵な夢を叶えるまでに、何度も挫けそうになることがあるかもしれません。辛い、しんどいと思う中にも夢を叶える鍵が必ず落ちていきます。実習先、サークル、大学など、人との出会いで自分自身はとても成長することが出来ました。4年しかない学生生活をまずは楽しむことを忘れず、その中でたくさん良いものを吸収して頂ければと思います。春から私も少し不安はありますが、子どもについて学ぶ仲間として一緒に頑張りましょうね。応援しています。

教員を目指す後輩へのメッセージ・アドバイス

人間科学部 総合子ども学科
高田 真衣

私は神戸市の教員採用試験に合格しました。そして、春から小学校教諭として働きます。小学校教諭になろうと決心したのは、小学校の教育実習を経験した後でした。それまでは、自分が教師に向いているかわからなかったため、教師以外の道も考えて、企業の合同説明会に参加するなど、自分の将来を模索していました。私は、教育実習の際に、子ども達と同じ時間を共有していく中で、成長を支える存在になりたいという気持ちが強くなり、小学校教諭になろうと決心しました。これまでの経験が何かひとつでもみなさんの力になれば幸いです。これから、教員採用試験のポイントとして2点述べていきたいと思います。

1つ目は筆記対策です。これは自治体によって受験科目が異なってきます。過去問をよく見て、傾向を知り、対策をとることが求められます。私は、1つの問題集を完璧に覚えるという意識を持って問題集を10周以上繰り返し解きました。また、2月からは月に1度、自分の実力試しとして模試を受けていました。本格的に勉強を始めたのは、2月からです。それまでは、時間を決めて勉強することを意識していましたが、2月からは勉強する項目を決めて、勉強に励みました。

2つ目は、他者の力を借りることです。教員採用試験は、筆記のほかに、面接や模擬授業、討論などがあります。これらは、実践を重ねていくことが1番です。特に、私達の学年は新型コロナウイルスの影響で学校に行くことができませんでした。そこで、オンラインの機能を使ってこれらの練習を行いました。実行委員が軸となって進めてくれたことで、多くの練習のチャンスをもらいました。また、先生方にも参加して頂いたおかげで、多くのアドバイスを得ることができました。さらに、友達といいところや反省点をフィードバックすることで多くの意見を吸収し、次に活かすことができました。さらに、私は多くの方から教員採用試験についての話を聞きました。教員採用試験は地方自治体によって特色が違います。だから、私は受験する地方自治体の教員採用試験に合格した先輩の話を知ったり、地方自治体が開催する説明会に参加したりしました。また、他の自治体を受けた先輩の方のお話もとても勉強になりました。自分が合格したい地方自治体だけでなく、他の地方自治体にも目をむけることも大切だと思います。

教員採用試験は勉強ももちろん大切だと思いますが、その人自身のことを見ているのだと感じました。大学生活の中でボランティアに行ったりサークルに参加したりするなど多くのことを経験することが、未来の自分に繋がると思います。教員採用試験は、自分が努力した分だけ自分に返ってくると実感した経験でした。最初から上手くいく訳ないし、向き不向き、得意不得意があると思います。しかし、自分を信じて、後悔しないように、今、目の前にあることを頑張ってみてください。そして、一人で抱え込まず周りの方の力を借りてください。人に助けを求めることは恥ずかしいことではありません。私は、家族、友達、先生、先輩、多くの方の支えのおかげで教員採用試験を乗り越えられました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。これから、この恩を返していけるように努めていきます。みなさんも自分の夢に向かって頑張ってください。

4-2. 各種体験記（日本語日本文化学科-中高課程）

合格体験記

文学部 日本語日本文化学科

石垣 優香

神戸市の教員採用試験に合格し、この春から国語教諭として教壇に立ちます。採用試験の合格を目指す方にとって少しでも参考になれば思い、今回、合格体験記を書かせていただくことになりました。大学生活でやってよかったと感じたことや実際に行った試験対策などを紹介しつつ、合格までの経緯をお話したいと思います。

まず、採用試験の準備期間でもある大学生活について述べたいと思います。

どのように大学生活を過ごしてきたか入学直後まで遡ってみます。私は教員になるために進学しました。意気込みはある一方で、何から始めればいいのかは見当も付きませんでした。

そんな中、最初に取り組んだのが日本語教育のプログラムです。「国語の教員になるのだから正しい日本語を学びたい」と思ったのがきっかけでしたが、国語教育とは全くの別物であることに後々気付きました。しかし全く別物だからこそ、他の人は持っていない私の武器となりました。なぜかというと、外国人の人口が多い神戸市では日本語指導を必要とする児童生徒が増加しています。需要は高まる一方で、日本語教育の資格を保有している教員は不足しているのが現状です。そのためか採用試験でも資格保有者は加点を受けることができました。結果的に日本語教育を学んだことは採用試験でもプラスに働きました。もちろん採用試験の為だけでなく、多様性やマイノリティの現状を知り、課題意識を持つことにも繋がるのでおすすめです。

2年生では、先輩に勧められた神戸市スクールサポーターに参加しました。指導補助のボランティアです。教育実習以前に「先生」として学校に携わることができるのはとても貴重な経験です。最終日には部活動の指導を、メニュー作りから全て任せていただきました。校長先生や教頭先生から助言をいただくこともでき、また現職の先生との距離も近くいろんな話を聞くことができました。校長先生によると「現役合格したほとんどの先生はスクールサポーターを経験していましたよ」と仰っていたのでこちらもおすすめです。

2年生から3年生の終わりごろまでは継続して、教職支援課が主催するTeacher's caféに参加していました。教員志望の学生で集まり行う勉強会です。同期の人数は少なかったのですが、先輩と交ざって意見交換することができたため、とても刺激になりました。活動内容は採用試験の対策をはじめ、現職のOGや東京アカデミーのスタッフの方が来られて、現場のことや採用試験について教えてくださいたり、採用試験に合格した先輩の体験談を聞かせていただいたりすることもありました。おかげで現場や採用試験がどんなものかだんだんとイメージが湧くようになりました。

1年生から3年生まではこのようにして情報収集を行い、教員としての働き方や姿勢を徐々に掴んでいきました。しかし3年生の最後に受けた模試は最低評価のE判定で、筆記試験が絶望的であることによりやく気付いたのです。

筆記試験の対策は3年生の内からやっていたつもりでした。ところが実際は身につ

いていなかったことが模試によって思い知らされ、教員になりたいと言葉にすることが恥ずかしいと感じるほどでした。気持ちは沈んでいましたが、初心を思い出さず、なんとか切り替えていきました。

4年生の最初にすることは公立の願書の提出と私学連合や私学求人情報サイトの登録です。もともと「大阪を出て離れた土地に行きたい」という思いと日本語教育の需要から、東京を第一志望にしていたのですがコロナにより断念しました。ゼミの先生に相談に乗っていただき、神戸市スクールサポーターの経験も鑑みて神戸市に決定しました。出願直前の4月末のことです。

ご存知の方もいるかもしれませんが、受験する自治体によって採用試験の筆記科目や対策方法は異なります。例えば東京は一般教養がありませんが、神戸はあります。つまりただでさえ絶望的な筆記試験の科目数が、受験まで二ヵ月というタイミングで増えたのです。恐ろしいことです…。さらに、コロナの影響による変更点も多々ありました。その中でいかに早く情報を収集するか、柔軟に対応できるか。まるで現場での対応力を試されているかのようなものでした…。

このような状況の中、幸か不幸か、緊急事態宣言を受け家にいる時間が必然的に増えました。図書館には行けず、先生方と相談・連携が取り辛い中、勉強時間は最大限確保することができました。1日7時間机に向かい、ひたすら問題を解くばかりでした。具体的な試験対策は自己流ですが以下の通りです。

専門科目の国語の対策は、センター試験の過去問で7割安定を目標にしました。これは私学の採用でも基準となるそうです。古典や漢文も基礎を大事にしました。教職教養はジャンル別に分かれていて且つ問題数の多いものを反復し、問題文に慣れるようにしました。範囲が広いうえに、手を付けていなかった一般教養は、得点の高い英語と国語を中心として勉強しました。自治体別の採用試験の過去問は時間の計測や出題傾向を確認する際に活用しました。

面接対策も同時に行います。自己分析はもちろん、教員としての自覚・感覚を文章化する必要があります。一人では難しいので、私をよく知っている人に自己分析をお願いしたり、自分の感情と文章が合致するまでエントリーシート等を書き直したり、現職の先生にアドバイスをいただいたりしました。また、キャリアセンターだけは登学が可能だったので（コロナの影響で色々と制限がある時期でした）模擬面接をしていただきました。

7月の頭に筆記試験と一次の集団面接を合わせた結果が届きました。無事、通過できました。詰め込みの数か月でしたが、諦めなくてよかったです。

8月の二次試験は個人面接・模擬授業・場面指導・小論文がありました。この時点でも大学には通えず心細かったのですが、教職支援課の方が気にかけてくださったおかげで、二次試験対策のサポートをオンラインで受けることができました。相談もなかなかできず抱え込んでいた時期だったので本当に心強かったです。本番は正直で、自分らしい受け答えだったと思います。

ただ、コロナの影響で教育実習前の採用試験となりました。模擬授業の直後、面接官に「授業は教育実習などで積み重ねてくださいね」と言われたときのぞっとする感覚は忘れません。落ちたなと思いましたが、後悔と不安が残る形で採用試験が終わりました。

予想に反して合格通知が届いたのは10月の初めの頃でした。本当に驚きましたが嬉

しかったです。

私の大学入学後から採用試験合格に至るまでの主な経緯は以上です。

やってよかったと思うことは、学校で働くイメージを掴んでおくことです。自分のどんなところを活かせるか、自分が教育に向いているのはどういうところか、短所を埋めるにはどうしたらいいか…。私の場合は、神戸市スクールサポーターやスイミングの指導バイトの経験、また現職の先生に話を聞いたり、ベテランの教員の著書を読んだりしたことがヒントになったと思います。これらから吸収した経験や知識は自分を形成する要素となります。面接でも話すことができましたし、教育実習でも役に立ちました。もちろん今後にも繋がると思っています。時間のある間になにか積極的に行動してみてください。

また、ここまで採用試験の経緯を書いてきましたが、合格することだけがゴールではない、ということも忘れないでください。私自身「良い教員」に専任も講師も関係ないのだと後の実習で気付きました。合格のために頑張るのか、「良い教員」になるために頑張るのか、最終的な目的は後者ではないでしょうか。採用試験は手段の一つでしかないはず。模試や採用試験で自信を喪失したり諦めたりするには早いです。

最後になりますが、「教員は大変」と囁かれる今の時代、それでもなお教員を目指したいと思う熱量は相当なものだと思います。そのエネルギーをパワーに変えて、頑張ってください。応援しています。

4-3. 各種体験記（看護学科-養護教諭課程）

養護実習レポート

看護リハビリテーション学部 看護学科

中島 侑樺

養護実習期間は2020年8月24日から9月18日までの一か月間、中学校。1・2年生が4学級、3年生が三学級の計11学級の学校、養護教諭の配置は1人であった。新型コロナウイルスの感染対策としては、朝に健康チェック表を提出させ、放課後には養護教諭と他の教員が手分けして、校内の手すりやドアノブなどの消毒作業を実施していた。

保健室を利用する生徒は少なく、一日で多くて4、5人程度であった。継続で来室している生徒が多く、全体的に心理的不調を訴える生徒が多い傾向にあり、腹痛などの身体的な不調で来室した生徒であっても、話しているうちに人間関係での悩みを養護教諭に相談し始める、という場面が多くあった。

身体的不調に関しては、残暑が記録的気温上昇の続く中、発熱や倦怠感といった感冒症状の訴えは、コロナウイルス感染の疑いがあるのか、熱中症であるのか、単に風邪気味であるのか、判断が難しい場面が何度もあった。感染症の拡大に関わらず、保健室対応の基本は丁寧な問診であり、生徒の状態を十分に把握した上で、以前より早期に帰宅を進めるような対応が取られていた。

新型コロナウイルス感染症拡大による休校の影響による生徒の心身の不調が観察された。一方、今まで不登校であった生徒が登校できるようになった、という場合もあれば、自粛期間に家庭環境などの様々な要因が重なったことでリズムが崩れ、登校できなくなった生徒もいた。

朝の職員の打ち合わせでは、全体の連絡事項を行った後、学年ごとの教科担任・クラス担任で会議を行うが、その時には、不登校生徒の登校の有無、電話での様子や、接し方として注意すべき点などを担任や養護教諭から全体に発信され、学年全体でサポートしていけるような体制がつけられていた。その中でも養護教諭は、保健室で生徒から得られた相談内容や、実際に家庭訪問を行うことで得た情報などを発信していた。生徒の現在の状況はどうか、そしてその生徒が学校で過ごしやすいうようにするためにはどのようなサポートが必要となるのかを中心に、養護教諭の立場から判断されたことを学んだ。

学校保健活動を通しての学びとして、①保健室という環境が多くの生徒の居場所になっている。思春期である生徒は様々な主訴を持ち、また、気持ちが不安定な生徒が多い中で、生徒一人ひとりに向き合い対応されている養護教諭の姿を学んだ。②緊急性が求められる状況においては、多くの教員に緊張感をもっていながらも、冷静に、そして迅速に状況を判断し、優先順位を考えて行動している。養護教諭の存在は、生徒だけでなく、学校環境の保健室として安心感に繋がっていることを感じた。③他の教員との連携について学んだ。全校生徒を対象に活動する中で、養護教諭が一人または二人いても、できることには限界がある。実習の中では、複数人の生徒が同時に来室した場面や、救急対応などで養護教諭が手を離せない場面、クラスでのトラブルが生じているが保健室で話を聞く限りでは状況を判断しきれない場面、などで、他の教員の協力の必要性を強

く感じた。必要時に十分な協力を得るためには、普段からの関係づくりが必要であった。実習中、養護教諭が保健室対応以外の時間は職員室で過ごす時間が多くあった。これは、空いた時間を利用して、普段から多くの教員と生徒の情報共有や何気ないコミュニケーションをとることを通して、関係性の構築を図っていたことがわかった。実際に、緊急時に多くの先生が養護教諭の指示を受けながら、また、自ら協力しようと動かれている様子から、このような教師間の連携が、結果的に生徒の安全に繋がっていることを感じた。このような教員との連携のみならず、保護者や救急隊、病院受診時の医師との連携が求められる場面が多くある。その中で養護教諭は、自分が見たもの・感じたもの、生徒の言葉・仕草、起こった事実、などといった情報を正確に、誤解なく伝える必要がある。そのためにも、注意深い観察、情報の整理、コミュニケーション能力が必要となることを学んだ。

学校保健行事として歯科検診・尿検査・水質検査が行われた。前日の準備としては検診物品を配置することや、生徒の動線を意識しながら環境を整えること、顎関節の異常を訴える生徒名簿に付箋をつけることなど事前準備を行った。歯科検診前日には、生徒が歯科検診のための保健指導プリントを配布する。歯磨きの実施状況を確認し、発達に合わせて歯の健康知識を身に付けられるような工夫が行われてた。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で二学期に延期された歯科検診で、歯科医が防護服・手袋・フェイスシールドを着用し、ダブルミラーでの実施、そして、生徒のマスク着脱のタイミングを徹底するなど様々な感染対策が行われていた。

保健日より・掲示物の作成を行った。緊急事態宣言下の自粛期間に身体活動量が減ったこと、また、夏休み明け直後のために、運動不足が考えられたこと、部活動が再開されていること、体育祭の練習が開始されることなどから、題材は、けがの予防と応急手当を考えた。これに関しては保健室前に同様のイラストの掲示物を作成し、生徒が何度も確認できるようにした。

保健室での実習以外に、「最後の1週間でしたいことをしていいよ」と学級配置いただいた2年生のクラス担任の先生から声をかけていただき、教室にも掲示物を作成させていただくことにした。今後の進路に向けて、自分自身をと向き合い、社会でどのように生きていきたいかを考えるきっかけにしてもらいたいと考えた。特に、実践させていただいた道徳の授業でも中心テーマであったことから、クラスの輪が見えるような掲示にしたいと考えて、「いろいろな生物がいる中でも共存しているということを海の生物をテーマにして作成した。「気持ちが続く仲間」の頭文字をとって「絆」をあらわした。一つひとつの生き物は生徒の目標や夢が書かれている。この掲示物をサプライズで渡したかったので、このイラストを描いてきてもらうために、担任の先生と生徒に作成の意図は内緒で掲示物を完成させることができた。

長いようで短い1か月間であったが、養護教諭の教育実習生、という枠を超えて、多くの経験をさせていただき、本当に充実した毎日であった。養護教諭や担任の先生、そして生徒の皆さんから学ばせていただいたことを、今後に繋げていきたい。養護教諭を目指す人に伝えたいこととしては、私は養護実習を通して養護教諭を目指す気持ちが強まったことを実感できたので、これから養護実習を控える学生は、どういう道に進むか悩むことが多くあるかとは思いますが、是非、教育実習を楽しみにして、日々の教職の授業に取り組んで欲しい、と考える。

目指す養護教諭像と学校で求められる力について
～教職科目・養護専門科目・養護実習・教職実践演習から統合的に振り返る～
～新型コロナウイルス感染症の時期を経て～

看護リハビリテーション学部 看護学科
赤松 風音

1. はじめに

入学時、私は子どもたちの想いに寄り添い、身近な存在で信頼を得られるような養護教諭になりたいと考えていた。しかし今、すべての教職課程を終えて、信頼を得られる養護教諭になるためには、専門性を生かしたアセスメント力や判断力、多職種で連携するための柔軟性、児童生徒の変化に気づくことができる観察力が必要であると考えようになった。医療現場では患者の想いに寄り添い、体力の消耗を最小限にするための療養環境を整え、退院後の生活を見据えた支援を行う。一方、教育現場では疾患や怪我の予防の観点から、子どもの“生きる力”を養うためにどのような関わりが有効であるか常に考え、働きかけることが大切であると学んだ。活動する場所は違っても、対象者に関心を寄せることを中心に、個別性を踏まえた支援が基盤となる。

2. 教職科目・養護専門科目・養護実習・教職実践演習の振り返りを通しての学び

養護実習では、小学2年生に「歯と食生活」をテーマに保健指導を行った。事前に行った実態調査では、毎晩欠かさず歯みがきをしていると答えた児童は88%であったが、むし歯を経験したことがあると答えた児童は92%であった。この実態から、むし歯になる過程の説明から歯みがきの重要性と、歯の健康を守るために歯みがき以外にできることを学習できるように指導案を作成し実施した。フィードバック受け、ワークシートを用いて学習した内容を振り返り、目標を定めて実践できるように支援したことは児童のセルフケア能力を向上させるために有効であったと考えた。しかし、授業の中で行動変容となる働きかけが不十分であったのではないかと感じた。私は、むし歯にならないように歯みがきをする大切さを伝えようとしていた。しかし、教育実践演習で歯科保健について学習する中で、歯みがきをする理由を前向きな思考で捉えさせる視点も大切であると知った。歯みがきによって「歯がつるつるになった」「口の中がすっきりした」というような気持ちいい感覚を体験できるように支援することで、行動変容に繋がりがやると学んだ。前向きな思考から自身の課題に取り組むことができるように支援することや、子どもできる力に目を向けた支援が健康への意識を向上させ自己効力感の高まる働きとなると考える。

3. 新型コロナウイルス感染症の時期を経て学んだこと

養護教諭には児童生徒の心身の健康を守る役割があるが、学校保健は養護教諭1人で行うものではなく、管理職や教職員、学校医などの学校行事に関わる関係者と連携を図りながら実践していく。今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で学校での生活様式を大きく変える必要があった。そのためには、専門的な観点から正しい情報を見極めて選択し、情報共有することが重要であり、養護教諭は児童や教職員が感染予防行動を取り入れることができるように、学校の環境整備に努めていた。新型コロナウイルス感染症のような治療方針やワクチンが確立されていない疾患

が流行している場合、多職種と連携する際に意見が対立することがある。実際に養護実習の期間中、修学旅行の就寝時にマスクの着用を義務付けるかどうか議論している場面があった。その場面で養護教諭は、近隣校の養護教諭と意見交換を行ったり、学校医や健康福祉事務所からの意見を貰ったり、学校内だけでなく横のつながりを大切にして連携を図っていた。そうすることで、多角的な視点から物事を捉えることができ、相手の意見を尊重した関わりができると学んだ。常に起こりうるリスクを予測し、児童と教職員の健康を守るためにはどのような関わりが有効であるのかを考えるアセスメント力や、予期せぬ状況に対しても、多職種と連携しながら対応できる柔軟さが養護教諭には必要であると学んだ場面であった。

4. おわりに

近年、子どもの抱える健康課題は様々であり、来室する児童の行動や様子の変化に目を向けて心のケアを行うことが重要である。養護教諭の全校児童（生徒）と関わるができる特性を生かして、来室する児童だけでなく全校児童との日頃からのコミュニケーションを大切に、安心感を与えることができる存在であることが、信頼を得ることに繋がると考える。また、児童や教職員の想いの傾聴や受容だけでなく、「Iメッセージ（私は～だと思う）」として自分の想いを伝えることで自身の健康管理ができ、保健室が明るい雰囲気のある場所となるだろう。そうすることで、児童が保健室に来室しやすく教室に戻りやすい環境になり、心身の健康を守るといった役割を果たすことができると学んだ。この4年間の教職課程では、学校で求められる養護教諭の役割について講義と実習を通して系統的に学ぶことができた。また、新型コロナウイルス感染症に対する学校での取り組みについても体験を通して学ぶことができ、養護教諭の専門性を生かした関わりを多くの場面で考えることができた。

目指す養護教諭像と学校で求められる力について

看護リハビリテーション学部 看護学科
松尾 萌

I. はじめに

4年間の教職課程を通し、養護教諭の役割や連携、ケーススタディなどを通しての実践的な思考など様々な学びがあった。特に教職実践演習では、4年間の教職課程の振り返りを通して養護教諭としての役割や、養護教諭を目指すために必要な心理面や行動についても学ぶことができた。また、養護実習期間では、新型コロナウイルス感染症拡大の時期を経て、感染症対策と学校運営、保健室運営のあり方や児童や教職員の安全を守るとはどういうことなのかを学んだ。コロナ禍での実習経験や4年間の教職・養護専門科目等の学びを踏まえ、目指す養護教諭像や学校で求められる力について考える。

II. 教職科目・養護専門科目・養護実習・教職実践演習の振り返りを通しての学び

これまでの教職課程では、カウンセリングマインドにおける養護教諭としての態度やケーススタディを通した根拠に基づく実践的な思考力、養護教諭専門科目では、他学年との合同授業や学校保健、連携に関する講義など様々なことを学んだ。それらを踏まえて行った養護実習では、保健室対応や健康診断を通して児童や学校環境に触れることで多くの学びや気づきがあった。学校環境は教育の場であり、養護教諭はそれを常に意識しながら児童と関わる必要があるということだった。保健室対応や健康診断なども児童に対する健康や生活についての教育・指導の場であるため、教師として真摯な態度で児童と向き合っていくことが大切であると学んだ。また、養護実習を終えた後、養護実践内容の発表会を通して、他の人の発表から、学校種ごとの健康課題や地域ごとの特徴を知ること、学校と地域は密接に関係しており、養護教諭は学校だけではなく地域の健康や安全にも目を向け、広い視点で学校運営に携わる必要があると考えを広げた。そして、学校医や学校薬剤師、歯科衛生士や他の学校の養護教諭など同職種も含めた他の職種と情報共有し、養護教諭が学校保健の中心となってあらゆる方向の連携をとっていくことが重要であると学んだ。また、実践発表の中には、LGBTに関する学校環境における対応の報告もあり、ジェンダーに関する課題についても取り組んでいくことが教育現場で必要になっていると強く感じた。

教職実践演習の授業では、学校薬剤師や歯科衛生士、教育委員会の方のゲストスピーカーの講義の機会もあり、養護教諭に求められる力を考えるためにはまずは学校の現状や地域の現状を知る必要があると深めることができた。保健室に来る児童の中には、身体的・心理的苦痛を訴えてやってくる児童が多いが、その背景にはいじめやSNSでのトラブルなど他の要因が関係していることもあり、養護教諭はそれらを把握する必要があることも深めることができた。そして、様々な児童との関わりにおいては、児童理解の考えを忘れず、理解できないのは相手が悪いと決めつけず自分自身を振り返る力も養護教諭として重要であると実感した。

III. 新型コロナウイルス感染症の時期を経ての学び

新型コロナウイルス感染症は学校環境にも大きな影響をもたらした。当初の養護実習

の時期には感染症拡大を防止するために活動自粛が呼びかけられていた。実際、学校が休校になるなどして児童の心身の健康にも大きく影響した。新しい生活様式を踏まえた学校生活では、マスク着用、消毒など以前の学校環境とは大きく異なり、養護教諭を含めた学校職員は児童の安全をどのようにして守るかを常に考えていかなければいけない状況であった。そのような学校環境では特に管理職や他の教員との連携は必須であり、養護教諭は衛生や健康・安全管理についての専門的な知識を持った上で中心となって牽引していく役割がある。また、心身のストレスを抱えた児童が増えている中で児童に寄り添うためには、まずは自分自身の健康管理を確実にできる力が必要である。

IV. おわりに

目指してきた養護教諭像は、児童に寄り添い自分自身も成長し続けられる養護教諭であった。現在はそれに加え、学校が置かれている状況をしっかり把握し、児童・教員・保護者・地域にとって安心できる存在の養護教諭を目指したいと思っている。講義や自分自身の実習体験を踏まえ、養護教諭は学校保健だけではなく、地域連携や児童理解など様々な分野において専門性を発揮できると身を持って学び、周囲を引っ張っていけるような養護教諭になりたいと感じた。4年間の学修を通して、養護教諭には、学校全体の健康・安全維持のためには何をすべきかを考える総合力や多職種の中心に立って周囲と共に連携していく力が必要である。そして、コロナ禍での実習を通して、新型コロナウイルス感染症対策が取れるような知識力や既存の感染予防対策と限られた学校資源の中での応用力、様々な状況下の健康を守る自己管理能力なども求められるのではないかと感じる。目指す養護教諭像の達成や学校で求められる力の獲得には、まずは健康や学校に関する知識が必要であり、今後も様々な情報に対して目を向け、学校環境と自分自身は何ができるかを熟考していく必要があると思っている。

目指す養護教諭像と学校で求められる力について

看護リハビリテーション学部 看護学科

三上 紗緒里

I. はじめに

四年間、教職科目・養護専門科目・養護実習・養護実践演習に取り組み、私は多くのことを学び経験した。そして、その学びを通して自身の目指す養護教諭像に必要な課題も見つかった。また、養護教諭に求められていることも理解できた。これから四年間の学びと自己課題、そして私の考える養護教諭に求められることについて新型コロナウイルス感染症の観点も踏まえて述べる。

II. 教職科目・養護専門科目・養護実習・養護実践演習からの学び

一年生から三年生では、教職科目、養護専門科目の講義を受け、教育の基礎知識、専門知識を学んだ。講義を受ける前まで、私は養護教諭の役割を理解しておらず、また、教育について分からない状態だった。しかし、講義を受け、教育における考え方や養護教諭の在り方、学校における保健室のあり方、教職員の業務内容、教育現場が抱える課題を理解することができた。実際に四年生では養護実習へ行き、これらの理解をより深めることができ、子どもの健康課題、保健室を来室する子どもの実際、子どもとの関わり方、多職種連携の実際、保護者へのアプローチの仕方についても学んだ。保健室を来室する児童は、身体的不調・精神的不調だけではなく、発育の関係でお漏らしをしてしまった児童が来室するなど、小学生の場合、知識が未熟であるため筋肉痛が分からず怪我をしたと思い、心配になってくる児童もいた。児童の健康課題として、特に今年度は新型コロナウイルスの影響で自粛期間に入り、自宅で過ごす時間が長いことから長時間のゲーム・テレビの使用による視力低下、夜更かしなどによる生活習慣の乱れ、運動をする機会が減ったことから体力の低下、肥満傾向にあることが分かった。学校では、児童の健康を守る必要があることから、児童への指導、家庭状況も把握し必要であれば親へのアプローチも考えて、学校と保護者が連携し取り組むことが大切であると学んだ。

「教職実践演習」では、インターネットによるいじめが多くなっているということを知った。インターネットが普及していることから、子どももインターネットに触れる機会が多くなっている。相手の気持ちを考えずに感じたことをそのまま言葉にしたり行動する子どもも存在する。そのため、本人は自覚がなかったとしてもトラブルに繋がりがやすく、そして、いじめ問題にも関わるのだと改めて理解することができた。実際に、いじめを予防できるように児童への呼びかけ、保護者に協力の呼びかけ、いじめに繋がりがちな問題について全教職員間での情報共有、また少人数でのケース会議を教育現場では行っていた。児童が安全に健康で元気に過ごすことができるように学校全体が一つのチームとなって問題に取り組んでいくことが大切であると学んだ。

III. 求められる養護教諭について

これらの学びから養護教諭には、専門的な知識、的確な判断力、視野を広く持つことが養護教諭には求められていると考えた。子どもは、予想外のところで怪我をしたり、物事を行う際に危険性が分からず悪ふざけをしまい怪我やトラブルを起こしたり

する。そのため、養護教諭は臨機応変に対応できるように解剖生理やヘルスアセスメントなどの知識を身に付けておく必要がある。そして、その知識を持った上で、的確の判断を行うことが重要となってくる。例えば、児童がアナフィラキシーを起こした場合、命に関わることであるため、初期対応では迅速に的確な判断を行うことが重要である。栄養教諭がない場合、養護教諭が主にアレルギー対応を行うため、養護教諭は判断力が求められると考えた。また、視野を広く持つことについて、児童は保健室に何かしらの訴えを持って来室するが、同じ時間にいつも来室する児童であれば、「その授業が苦手なのかもしれない」などと予測を立てて、「最近勉強は何してるの？」と違う視点から話を切り出すことで、その児童の抱えている思いを引き出すことに繋がると学んだ。このようにただ児童の訴えだけを真に受けるのではなく、視野を広く持ってその訴えの裏側を捉えることが大切であると学んだ。養護教諭は、特にこの力が大切ではないかと考える。そして、児童や他の教職員、多職種とのコミュニケーションを積極的に取ることができる力も必要だと考えた。養護教諭は全校児童を見る立場で、また少数職種であるため、関係性を構築することは難しい。そのため、養護教諭はその一人ひとりに寄り添い、それぞれの個別性に合わせた関わりを積極的に行うことが信頼関係の構築に繋がると考える。

IV. おわりに

目指す養護教諭像は「子どもの気持ちに寄り添い、同じ目線に立って関わることのできる養護教諭」である。この四年間の学習を通して、ヘルスアセスメントなどの知識が不十分であること、視野を広く持つ力が不足していることが自己課題であると気づいた。教育現場は臨機応変な対応が求められる場面が多い。現在、新型コロナウイルスの影響により、教育現場は試行錯誤しながら、限られた中でできる最大限の取り組みをしていた。このようにことから視野を広く持って行動することはとても大切であると実感した。そのため、この四年間の学びを活かし、求められる養護教諭、目指す養護教諭像に近づけられるように、今後の自己課題と向き合っていく。

養護実習を終えて

看護学科4年 5117047 齋藤紬
実習期間:2020年8月24日～9月18日
実習校:豊中市立小学校

実習校の概要



・全校児童数 655名(21学級)

・学校目標
「ともに学び たくましく生きる」

・育てほしい子どもの姿

- ①「自分が好き～自分の持ち味を大切に、自信が持てる子～」
- ②「なかまと共に～仲間の持ち味を尊重し、ともに活動する子～」
- ③「夢がいっぱい～自分の道を自分で選び、進んでいく子～」



実習の主な活動内容

- ・保健室対応
- ・保健指導(1年生、6年生)
- ・健康診断(内科検診、耳鼻科検診、心臓検診、尿検査)
- ・保健だよりの作成
- ・毎朝の体調、体温チェック
- ・その他(校内巡視、給食、昼休みなど)

<保健室対応>



④



保健室対応での学び

- ・子どもの疾患、救急処置の知識
- ・素早い観察、判断とその子にあった対応
- ・ハウレンソウ(報告、連絡、相談)、連携
- ・保護者への対応

健康診断

- ・教職員との連携
- ・学校医との事前打ち合わせ

<内科検診>

- ・プライバシーへの配慮



<耳鼻科検診>

- ・恐怖心を持つ児童への対応

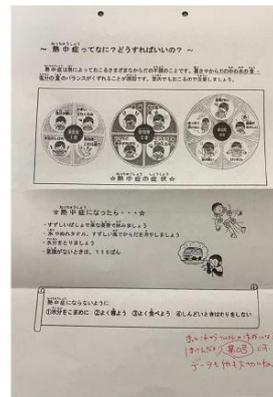
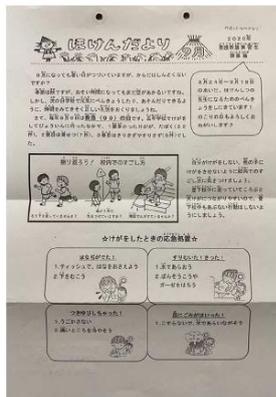


<心臓検診>

- ・恐怖心を持つ児童への対応



<保健だよりの作成>



- ・低学年でもわかる言葉遣いで
- ・去年の実習校のデータを用いて

<毎朝の体調、体温チェック>

- ・非接触型の体温計で体温測定&体調のよし悪し
&咳の有無
- ・クラスごとの健康観察簿で児童の体調確認



コロナウイルス
感染症対策



熱中症対策

<その他(校内巡視、給食、昼休み)>

- ・校内に危険箇所がないか
- ・授業中の児童の様子、授業内容の把握
- ・クラスごとの給食活動の違い
- ・昼休み、クラブ活動の様子から危険がないか
- ・児童と打ち解けるきっかけとなる

こまめな手洗
い、消毒

こまめな換気

なるべくマスク
着用を指導

水分摂取促進

室内気温

実習で学んだこと

- ・子どもの疾患、救急処置の知識をもとに素早い観察、判断とその子にあった対応が必要
- ・担任の先生や教職員、保護者へのホウレンソウ(報告、連絡、相談)、連携の大切さ
- ・保健指導の難しさ(特に児童主体の授業展開)、養護教諭として保健指導の大切さ
- ・養護教諭は、教育現場の中で医療の専門知識を持つものである
- ・いろんな子どもがいる

養護教諭を目指す人に伝えたいこと

今の看護と教職の勉強の両立を頑張ろう！

養護実習前は、来室理由で多い外傷（切り傷、擦り傷、打撲）や病気（腹痛、頭痛）の対処をしっかり勉強しておくで最初に戸惑わない。

わからないことはしっかり聞いて学び、積極的に子どもたちと関わろう！！



養護実習を終えて

甲南女子大学看護学科5117050柴田菜摘

1. 実習校の概要



実習校: 西脇市立小学校
所在地: 兵庫県西脇市
全校児童数: 787名
教育目標: 夢に向かって学び続ける児童の育成
学校環境: 西脇市の人口約4万人、世帯数約1万7千人
給食センターでは食育だよりを掲載していたり、小学校では毎月重小だよりの発行や新型コロナウイルス感染症の対応のために家庭用学習用ページができています

2. 実践内容

主な私の一日の流れ

7時50分	小学校靴箱付近にて朝の挨拶
8時00分	朝の会、1時間目授業見学
9時30分	保健室対応、ご講話、健康診断準備などの作業
12時10分	5年竹組にて給食配膳
12時50分	児童と昼休みを過ごす
13時15分	教室・保健室掃除
13時35分	保健室対応、ご講話、健康診断
15時20分	児童帰宅後、図書室と多目的ルームの消毒
16時	保健室記録のデータ入力、事後処置、記録の整理
17時30分	実習終了

授業見学で私が感じたこと

- 1年生 教師の手助けや呼びかけが必要
- 2年生 自分の役割を守る
- 3年生 児童同士で注意ができる
- 4年生 時間を見て行動できる
- 5年生 自ら意見がはっきり言える
- 6年生 疑問に対し、みんなで話し合い問題解決を目指す

保健室の新型コロナウイルス感染症対策



仕切り

ビニール
カーテン



保健室で実施したこと



- ・欠席確認、休んだ理由を集計
- ・熱中症対応として何時間かおきに、環境省の示す熱中症アラートを調べた
- ・児童対応
- ・健康診断準備
- ・健康診断
- ・事後処置など

熱中症対処・予防

表3-1 熱中症予防のための運動指針

暑さ指数 (WBGT) (℃)	湿球温度 (℃)	乾球温度 (℃)	熱中症予防のための運動指針
31	27	35	運動は原則中止 特別の場合以外は中止。特に、子どもの場合は中止すべき。
28	24	31	厳重警戒 激しい運動・持久走は避ける。積極的に休息をとり、水分補給。体力のない者、暑さに慣れていない者は運動中止。
25	21	28	警戒 積極的に休息をとり、水分補給。激しい運動では、30分おきぐらいに休息。
21	18	24	注意 死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意。運動の合間に水分補給。
			ほぼ安全 通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分補給を行う。市民マラソン等ではこの条件でも要注意。

(日本体育協会、2013)

- 1) 環境条件の評価には暑さ指数(WBGT)が望ましい。
- 2) 乾球温度を用いる場合には、湿度に注意する。湿度が高ければ、1ランク厳しい環境条件の運動指針を適用する。

熱中症チェックシート

項目	確認事項	確認	備考
A 暑熱環境チェック	暑熱環境チェック	<input type="checkbox"/>	
	暑熱環境チェック	<input type="checkbox"/>	
	暑熱環境チェック	<input type="checkbox"/>	
	暑熱環境チェック	<input type="checkbox"/>	
B 暑熱環境チェック	暑熱環境チェック	<input type="checkbox"/>	
	暑熱環境チェック	<input type="checkbox"/>	
	暑熱環境チェック	<input type="checkbox"/>	
	暑熱環境チェック	<input type="checkbox"/>	
C バイタルチェック	バイタルチェック	<input type="checkbox"/>	
	バイタルチェック	<input type="checkbox"/>	
	バイタルチェック	<input type="checkbox"/>	
	バイタルチェック	<input type="checkbox"/>	

健康診断(発育測定・内科検診)



新型コロナウイルス感染症のため、間隔をあけて廊下にならんでもらうように促した

健康診断(発育測定・内科検診)

入り口と出口を
分けた



ビニールにて
感染対策

体重係と身長
係に分かれて
計測

健康診断事前準備・事後処置

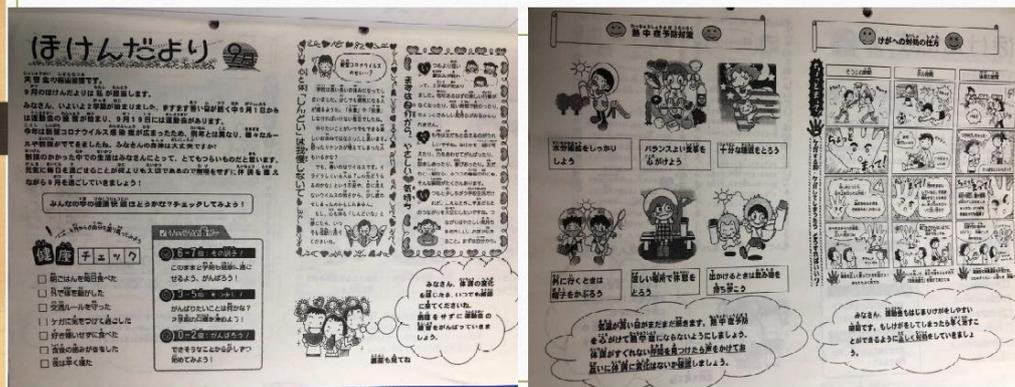
事前準備

- ・症状や疾患がある場合すぐに医師に伝えることができるようにマーカーペン、付箋をつける

事後処置

- ・診断数値・結果をコンピューターへ入力
- ・治療勧告願い書類作成

保健だよりの作成



運動会での救護班



一緒に手洗い

保健指導

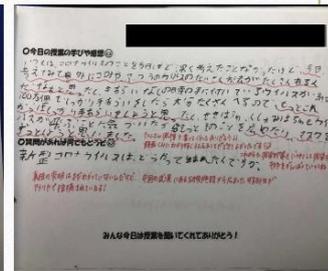
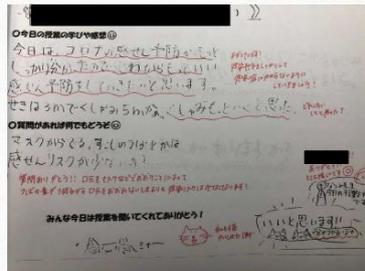
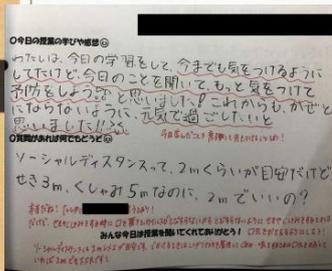
紐を伸ばして菌の飛距離を視覚的に伝える



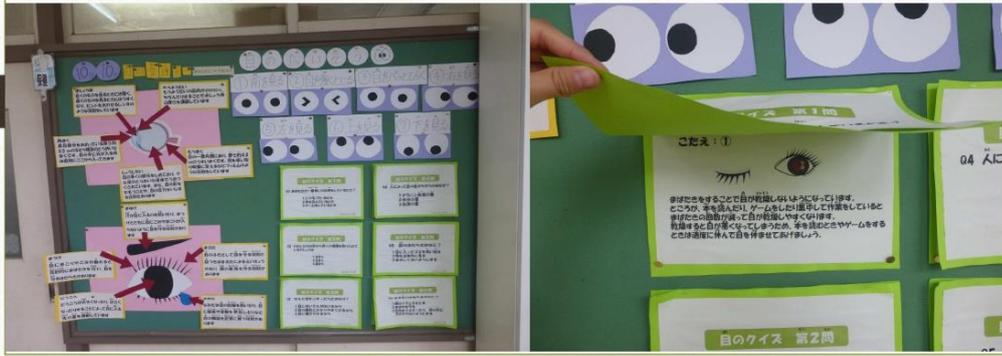
テーマ
「感染症について理解し、
感染症を正しく予防しよう」



保健指導



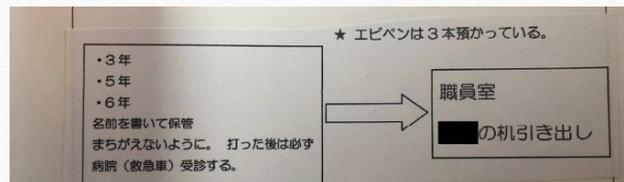
保健室前の掲示板



救急バック整理



救急処置・体制



学校全体でエピペンの場所を共有

3. 実習で学んだこと(反省)

養護実習で学んだこと

- ・養護教諭の役割はたくさんある
- ・必要な情報収集し判断を素早く行うこと
- ・記録の管理の徹底

反省点

- ・保健指導時に児童の意見を聞くこと
- ・先生方とコミュニケーションをとること

4. 養護教諭を目指す人に伝えたいこと



養護教諭は役割がたくさんあり、大変ではあると思いますが、一方で、児童に支えられたり児童から学ぶこともたくさんあり、とてもやりがいのある素晴らしいお仕事だと思います。

ご清聴ありがとうございました

養護実習を終えて

5117015 伊藤早映

実習場所：箕面市立中学校

実習期間：2020年9月14日～10月9日

新型コロナウイルスへの対応

- ・各家庭での健康観察カードの記入、担任によるチェック
- ・階段手すりの消毒
- ・検温忘れ、マスク忘れの対応
- ・廊下や教室の窓や玄関のドアの開放による換気
- ・各教室や手洗い場での手洗い実施やマスク着用の注意喚起を行う掲示物
- ・給食時は前をむいて食べる

けんこうかんさつカード		年 級 番 号 前			
日時	体温	本人	症状(発熱以外)	同席の方	検温者
9/14(水) 時 分	-	健康	せき、のどの痛み、鼻水、鼻づまり、高熱しい様子が無い。他く	なし	あり
9/15(木) 時 分	-	健康	せき、のどの痛み、鼻水、鼻づまり、高熱しい様子が無い。他く	なし	あり
9/16(金) 時 分	-	健康	せき、のどの痛み、鼻水、鼻づまり、高熱しい様子が無い。他く	なし	あり
9/17(土) 時 分	-	健康	せき、のどの痛み、鼻水、鼻づまり、高熱しい様子が無い。他く	なし	あり
9/18(日) 時 分	-	健康	せき、のどの痛み、鼻水、鼻づまり、高熱しい様子が無い。他く	なし	あり
9/19(月) 時 分	-	健康	せき、のどの痛み、鼻水、鼻づまり、高熱しい様子が無い。他く	なし	あり
9/20(火) 時 分	-	健康	せき、のどの痛み、鼻水、鼻づまり、高熱しい様子が無い。他く	なし	あり
9/21(水) 時 分	-	健康	せき、のどの痛み、鼻水、鼻づまり、高熱しい様子が無い。他く	なし	あり

保健室対応 「個別の保健指導の機会」

1

体温測定と問診

(朝食の有無、昨日の就寝時間、水分摂取状況)

生活習慣が
大きく関わる

2

原因の把握

(自分自身で考えさせる、指導のタイミング)

3

対応・処置

(保健室でどうしたいのかを自分で決めさせる)

4

管理職、教員への保健室利用状況報告

(名前、症状、原因、対応方法)

3

保健室対応

○早退者の対応

担任(副担任)より保護者へ連絡

→生徒は迎えに来てもらうか一人で帰るか。

Ex)迎えに来た保護者から相談を受ける場面

「朝から頭が痛いと言っていたので知っていたのですが、今みなさん(他の保護者)はこのような時どうされているのでしょうか？」

↓

「今は、コロナのこともあり原因が不明な体調不良に関しては、欠席ではなく出席停止扱いになっているので、家でしっかり休養を取ることを優先させてください。」

「保護者への情報提供・共有の場」



内科検診準備

○実施計画書を職員会議に提出
当日検診と重なる授業の担当教員に確認

○検診前日に学校医に連絡
スケジュール・感染症対策のレベルの確認

内科検診時の授業

9/4(金) 13:15~				
	2A	2B	2C	
5限目	美術	国語	数学	
6限目	英語	英語	理科	
9/10(木) 13:15~				
	2D	2E	1A	1B
5限目	国語	英語	英語	音楽
6限目	英語	数学	美術	社会
9/16(水) 13:20~				
	3C	3D	3E	
5限目	英語	社会	理科	

内科検診実施について (改訂版)

目的	疾患の状態で(やせすぎ・太りすぎ)、身体や関節、皮膚疾患、心臓疾患などの内科的疾患の有無を調べる
対象者	全学年
日時	9月 4日(金) 13:15~ 2ABC 10日(木) 13:15~ 2DE 1AB 16日(水) 13:20~ 3CDE 17日(木) 13:20~ 3AB 1CD
検診場所	保健室
配布物	検査票(表)・検診検診票
事前指導	○前日には体を清潔にしておくよう指導ください。 ○検診が指定されているクラスは時間通りに、その他のクラスは呼び出しが来たら、男女別出席番号順に整列させて引率してください。
手順	9/4(金) 2A 男子→2A 女子→2B 女子→2B 男子→2C 男子→2C 女子 9/10(木) 2D 男子→2D 女子→2E 女子→2E 男子→1A 男子→1A 女子 →1B 女子→1B 男子 9/16(水) 3C 男子→3C 女子→3D 男子→3D 女子→3E 男子→3E 女子 9/17(木) 3A 男子→3A 女子→3B 女子→3B 男子→1C 男子→1C 女子 →1D 女子→1D 男子 ○検診の総時間は1クラス25分程度です ○呼び出しが来たら、教科担当の先生が引率してください ○休み時間も続けて検診を行います。休み時間に検診が入りそうなクラスには早めに連絡をしますの て、スムーズに受けられるようご協力をお願いします。 ※欠席者毎次の検診時に検診できるよう連絡をお願いします。
補助	○保健室内で、廊下で検診の呼び出しにならないように生徒への指示、誘導、次のクラスへの呼び出しをお願いします。 ○内科検診なので、 女性の先生方に補助をお願いします。

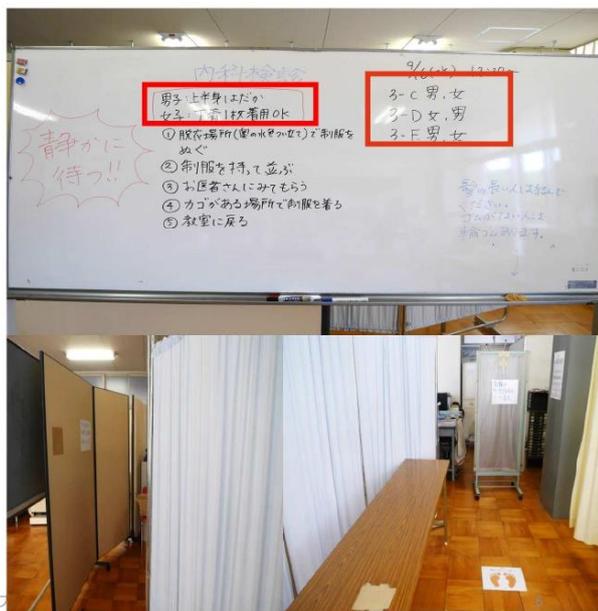
内科検診当日

○診察の順番
男子→女子→女子→男子→男子
によるスムーズな実施

○LGBTに対する養護教諭の考え

- ・男女分けて実施することの懸念
(二測定でも男女一緒に実施)
- ・女子のみシャツの着用OK
- ・内科検診では女性の先生に補助を協力してもらう

○学校医に学校で起こった事例の報告



内科検診事後措置

○受診対象者宛の書類作成、配布

○欠席者に対しては、学校医とスケジュール調整を行い、学校から対象者を引率して受診（管理職）

→事前に欠席者の保護者宛に学校での引率が家庭で受診するかの希望調査実施

○受診報告書の回収率によって保護者のこどもの健康への関心度がわかるもの

内科検診結果のお知らせ
平成 年(年) 月 日
保護者の方へ
今回の健康診断の結果、下記の状態あるいはその疑いがあると診断されましたのでなるべく早く検査または治療を受けてください。
病名または所見

内科受診依頼書
主治医様
検査の結果上記のように診断されましたのでよろしくお願い致します。
なお、診療の結果をご面倒ですが、下記報告書にご記入の上、受診者にお渡しくださるようお願いいたします。
校長名

内科受診報告書
年 月 日
診断名または所見 ()
日常生活上の改善 ()
学校生活上の改善 ()
上記のとおり診断または治療しましたので報告します。
平成 年(年) 月 日
某市立校長様
医療機関名 印

7

健康診断時の他の職員との連携の必要性と実態

○小学校教員と中学校教員での子どもの健康への関心度の差

自分のクラスの全教科を担当する小学校と担当教科で教員が異なる中学校

○保健室へ生徒の様子を見に来る職員の少なさ

(生徒指導教員の存在)

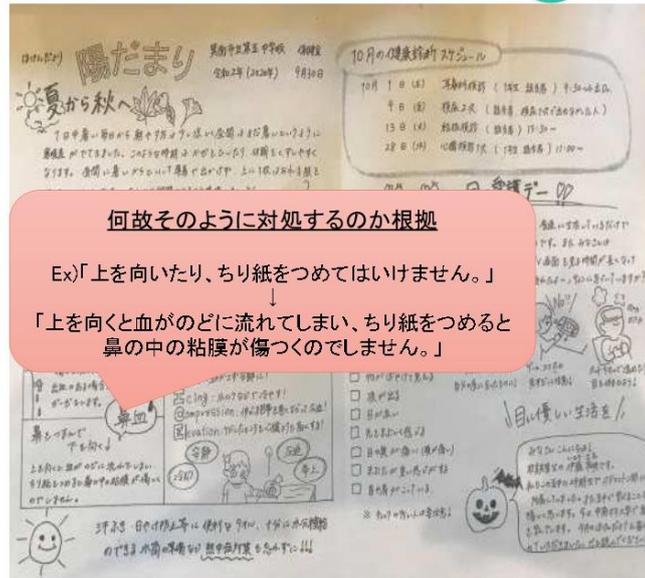
学校運営は様々な立場の職員で日々業務を担っているため、
それぞれの立場に立たなければ見えないものがある。



養護教諭は何か、他の職員に提案するときには、それぞれの立場を想像しながら
行うという意識を持つこと心がけている

保健だより作成

- 手書きで作成する意図
- この学校でしか使えないものに
- 保健だよりは
保健指導のチャンス
(生徒、教員、保護者)
- 言葉の使い方
「しっかり」「ちゃんと」は×
謙譲語と丁寧語



保健指導

主題

「目の健康について～目はどうして疲れるのか～」

設定理由

登校が開始になるまでオンライン授業
対面授業でもデジタル教材の使用
中間テスト期間後の実施

対象：第二学年

場所・時間：第二学年各学級 終礼時5分間



保健指導

<工夫点>

- ・知っているキャラクターのイラストの使用
- ・作成した水晶体の立体模型と自分の腕を毛様体筋として2つの関係性をイメージしやすく

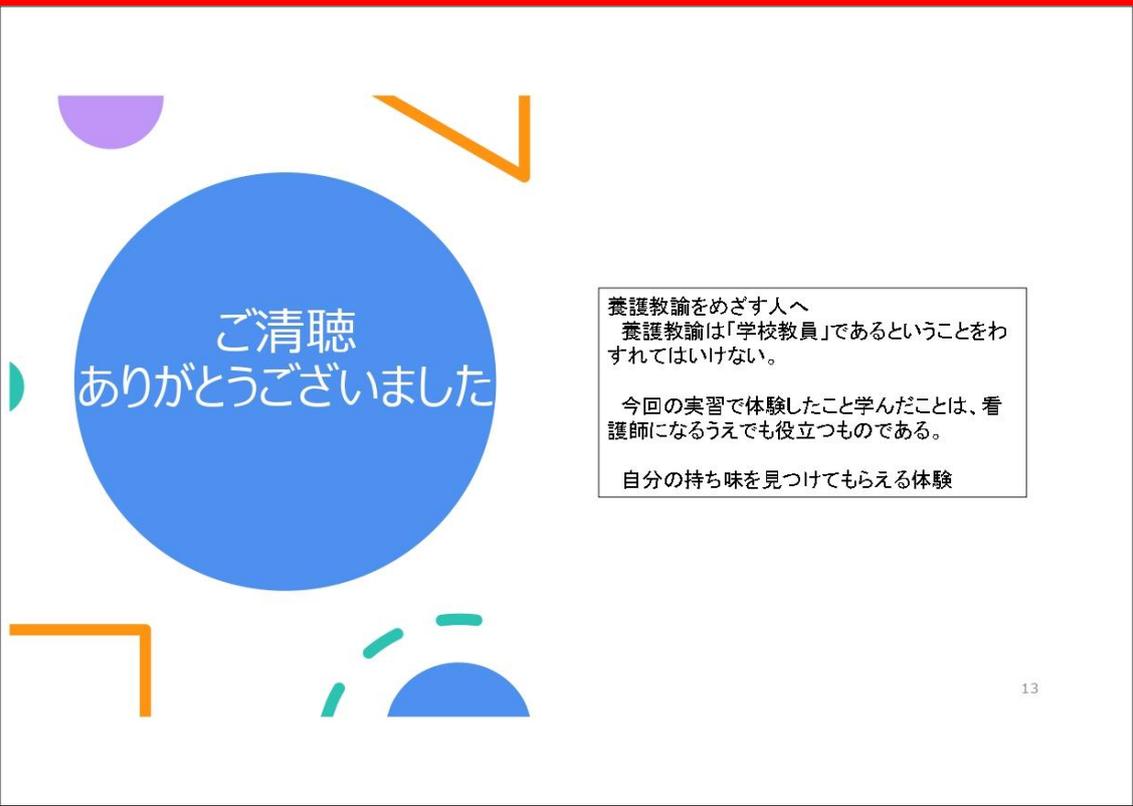
<養護教諭からの学び>

- ・常に生徒が主役
- ・健康教育では、子どもの心を揺さぶり、子ども自身が授業者の目的にたどり着けるかがポイント
- ・指導した内容が行動変容に結びけることができた時が本当の目標達成の時

11

実習の学び

- 新型コロナウイルスによる学校現場の当たり前が大きく揺れた状況
 - 特に生徒の精神面への影響
- 養護教諭が生徒との関係を築くことの難しさ
 - 学級運営や教科を担当しない養護教諭の生徒と過ごす時間の短さ
 - 私の存在で誰かひとりでも救うことができたなら、支えになることができたなら…という心がけ
- 養護教諭は学校職員の一人である
- 生徒一人ひとりの背景を把握、その生徒にあった対応をすることの難しさ
 - 他の職員と協力し合い考え続けることの必要性和終わりが無いということ
- 人権感覚（発達面、性自認など）を学ぶ姿勢は大切な資質・能力



ご清聴
ありがとうございました

養護教諭をめざす人へ
養護教諭は「学校教員」であるということをお知らせしてはいけない。

今回の実習で体験したこと学んだことは、看護師になるうえでも役立つものである。

自分の持ち味を見つけてもらえる体験

13

看護学科FD研修会
2020年度養護実習を振り返る
～2021年度にむけて

甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学科
学校保健学・教職課程（養護教諭）
林 照子

2020年3月から新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため、緊急事態宣言後、他大学同様、2020年度の教育実習を予定している本学の学生に対する指導は試行錯誤であった。

学校の児童生徒同様、いかに大学生の心身の健康と安全安心を保障していくことができるのか、また、教職課程の統合ともいえる教育実習（養護実習）の事前・実習中・事後の教育指導にどのように取り組むべきか、状況変化に合わせて検討を重ねてきた。

本報告は、学科FD研修の一環として報告したものの一部である。

2021年4月

看護学科 教職課程担当 林 照子

報告の内容

<はじめに>

教職課程における教育実習（養護実習）の位置づけ

<対応策>

養護実習開始前・養護実習期間中・養護実習終了後

<評価>

2020年度の養護実習 学生評価と課題

はじめに

教職課程における「教育実習（養護実習）」の位置づけ
（コアカリキュラム「教育実践に関する科目」5単位）

全体目標

「教育実習(養護実習)は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につける」

- 下位目標
- (1) 事前指導・事後指導に関する事項
 - (2) 観察及び参加並びに教育実習校の理解に関する事項
 - (3) 養護に関する事項および保健室経営に関する事項

◇本学の履修時期

3年次 養護実習校（原則出身校）への依頼と内諾

→4年次「養護実習Ⅰ（事前事後指導）」1単位 + 「養護実習Ⅱ」4単位

COVID-19影響下 教育実習に対する文部科学省の方針

教育実習・介護等体験の実施に当たっての留意事項	教育実習の実施期間の弾力化
<p>令和2年度における教育実習の実施に当たっての留意事項について（概要） 【令和2年4月3日通知】</p> <p>教育実習は、学生が学校現場での教育実践を通して、教育者としての覚悟と使命感を深め、将来教師になるための能力や適性を考える上で極めて重要な機会である。今年度の教育実習については、新型コロナウイルス感染症の拡大により、地域によっては、学校の臨時休業に伴い、特に年度の前半において実施が困難になる場合もあり得るため、各大学等に対し、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地域の状況に応じて、事前に予定していた実施時期を秋以降に変更すること ② 受け入れ数が制限される場合には、卒業年度の学生を優先すること ③ 学生が実習に参加するに当たっては万全の感染症対策を講ずること <p>など教育実習を実施するに当たっての留意事項を示したものを、</p> <p>令和2年度における介護等体験の実施に当たっての留意事項について（概要） 【令和2年4月3日通知】</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、小中学校の教員免許状授与に必要な介護等体験について、例年通りの実施が困難となる可能性があるため、各大学等に対し、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地域の状況に応じて、実施時期を秋以降に変更すること、 ② 卒業年度の学生を優先すること、 ③ 障害者や高齢者等と直接の交流以外の体験内容を中心とすること <p>など介護等体験を実施するに当たっての留意事項を示したものを、</p>	<p>令和2年度における教育実習の実施期間の弾力化について（概要） 【令和2年5月1日通知】</p> <p>4月16日に、全都道府県が緊急事態措置の対象とされたことにより、臨時休業が延長されている幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校等（以下「小学校等」という。）が全国的に相次ぎ発生していることや、さらなる臨時休業の長期化を踏まえ、教育実習の実施期間の弾力化について考え方を示すもの。</p> <p>※今回の対応は、教育実習（例：小学校5単位）のうち事前事後学習の1単位を除いた部分</p> <p>【通知の内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 令和2年度に限って、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、教育実習の科目の総授業時間数のうち、3分の1を超えない範囲を大学・専門学校等における授業により行うことは差し支えない。その際、大学・専門学校等における授業についても、学校教育の実情を体感的、総合的に理解できるような実習・演習等として実施すること等に努めることが強く期待される。 2. 小学校等における令和2年度の教育課程内での補充のための授業や教育課程に位置付けない補習を支援する等の学習支援人材としての活動は、各大学・専門学校等の判断により、授業の目的と密接に関わる場合は、主校体験活動等・教育実習の科目の総授業時間数のうち、3分の1を超えない範囲で行う授業として位置付けることが可能であること。 ※学校体験活動は、教育実習の単位の一部とすることができる。現行制度上、既に学習支援人材としての活動は、学校体験活動に位置付けることが可能となっているが、今回改めて通知。 3. また、特別支援学校教諭の教職課程における教育実習、養護教諭の教職課程における養護実習、栄養教諭の教職課程における栄養教育実習についても、1及び2について同様の取り扱いとする。

→ 8月11日（通知） 代替措置

本学 教育実習（養護実習）にむけた 対応策の検討の要点

1 組織対応

大学内：教職支援課との情報共有 教職課程委員会

学外：他養成大学及び関係機関との情報交換

2 学生指導 健康管理（メンタルケアも）

3 教育実習学校

緊急事態宣言 学校再開後の変更点等の情報収集

実習訪問指導の留意点

教育実習受け入れ条件と判断（自治体、教育委員会の指針）

4 代替措置案作成

文部科学省への報告

5 次年度（3年生）の実習依頼方法の変更

2020年度 養護実習校所在地域 と実習期間について

- ◇対象 看護学科4年 14名
- ◇地域
大阪府：10名 大阪市2・堺市・北摂地域
(吹田市2・箕面市・池田市・豊中市・高槻市)
兵庫県：5名
(神戸市・芦屋市・加古川市・西脇市・福崎町)
- ◇時期：5月～6月：12名 9月～10月：3名
- 一緊急事態発令後、本学から**時期変更**の依頼を行う
(実習校の要望への対応)
- 一特例措置の発表により**実習期間3週間**に変更
<全員の**実習期** 8月24日～10月9日>
- 一学内演習などによる代替措置に関する通達(8月11日発表)を受け、事態に備えた**教育課程代替案**の作成
- <追加 事前指導> 臨時教職課程委員会の開催
- <この間、次年度3年生(15名)の実習依頼も平行>

実習校	内諾状況	変更後
	3月31日時点	8月24日時点
大阪府 高槻市立小学校	令和2年9月7日(月)～10月3日(土)	変更なし
兵庫県 福崎町立小学校	令和2年9月1日(火)～9月30日(水)	変更なし
大阪府 箕面市立中学校	令和2年6月1日(月)～6月26日(金)	令和2年9月14日(月)～10月9日(金)
大阪府 大阪市立小学校	令和2年5月11日(月)～6月5日(金)	令和2年9月3日(木)～10月2日(金)
大阪府 堺市立小学校	令和2年6月1日(月)～6月26日(金)	令和2年8月24日(月)～9月19日(金)
兵庫県 芦屋市立小学校	令和2年9月1日(火)～9月30日(水)	変更なし
大阪府 豊中市立小学校	未定	令和2年8月24日(月)～9月18日(金)
兵庫県 西脇市立小学校	令和2年5月11日(月)～6月5日(金)	令和2年8月31日(月)～9月25日(金)
大阪府 吹田市立中学校	令和2年5月18日(月)～6月12日(金)	令和2年8月24日(月)～9月18日(金)
兵庫県 加古川市立小学校	令和2年6月1日(月)～6月26日(金)	令和2年8月31日(月)～9月18日(金)
大阪府 池田市立小学校	令和2年6月1日(月)～6月26日(金)	令和2年8月24日(月)～9月18日(金)
大阪府 吹田市立小学校	令和2年6月2日(火)～6月26日(金)	令和2年8月25日(火)～9月18日(金)
大阪府 私立 中等高等学校	令和2年6月1日(月)～6月28日(日)	令和2年9月14日(月)～10月3日(土)
兵庫県 私立 中等高等学校	令和2年6月1日(月)～6月27日(土)	令和2年9月1日(火)～9月19日(土)

代替措置案(抜粋)・・・あくまでも実習校で実習受け入れ不可能となった場合に令和2年度のみの特例措置

◇実習期間2週～中止実習となった場合

不足内容・時間数について学内演習・遠隔授業等で対応する。

本学看護学科「養護実習指導要項」に示す以下5項目領域を中心として、習得内容の確認を科目責任者が行う。

- 1 学校に対する理解：教育課程および学校保健組織活動
- 2 学校保健安全計画と保健室経営の実態
- 3 児童生徒理解とその対応の実態
：応急処置・感染予防などの保健室における児童生徒対応と教育支援
- 4 学校保健管理の実態
：定期健康診断の計画準備事後措置・学校環境衛生管理
- 5 学校保健教育の実態：研究授業(模擬授業)
「保健指導」案に基づき教育実践と相互授業評価

*看護学科の教育実習(養護実習)の場合
卒業年次生

教職課程以外に卒業必修科目と国家試験(2月)

看護学科は「**養護実習I(事後指導)**」、「**教職実践演習(養護教諭)**」15コマを履修し、12月上旬までにすべての教職課程の科目の修得を終えなければならない。

→実習期間内(上記7週間)に不足時間数・相当内容を可能なかぎり調整する。

最終調整実習期間

1 週目 (8/24)5人	2 週目 (8/31)11人	3 週目 (9/7)12人	4 週目 (9/14)14人	5 週目 (9/21)9人	6 週目 (9/28)7人	7 週目 (10/5)1人
5名						
	2名			(1)		
	4名					
		1名				
			1名			
			1名			

学生への事前指導

4月「養護実習Ⅰ（事前指導）」（Zoom）15コマ

- + 緊急連絡体制の確認
- 個別面談および課題添削指導
- 「新しい生活様式（最新Ver.）」の確認

8月 感染予防オリエンテーション（Zoom）3コマ

- 内容：緊急事態宣言あけ学校再開の教育実践
- ・夏季休業期間中の健康管理 行動指針
 - ・養護実習校との事前打ち合わせ日程と内容の確認

養護実習開始前日、電話による個別指導とカウンセリング

- ①2週間前からの健康調査票記載内容の確認
- ②実習校との打ち合わせ事項 訪問指導日
- ③臨時休校時の対応
- ④熱中症予防対策
- ⑤感染予防のための手指消毒、フェイスシールド
- ⑥実習期間中 帰宅後の感染予防 家族の理解と協力
- ⑦その他

実習校への事前確認

・実習時期および期間の再調整

課程担当者から各学校管理職へ直接連絡

⇒受け入れ側の困惑 地域および学校種の温度差
「先が読めない、予定がたたない、時期の決定確約できない」「児童生徒・保護者に対する説明責任」「他大学の対応、教育実習生との関係」など多様。

⇒各学校の実情の聞き取りと大学への要望の確認

- ・実習開始1週間前 各実習校に連絡。
 - ・地域の実情、変更事項の有無等
 - ・本学の感染予防のための行動指針に「養護実習事前指導内容チェックリスト」
 - ・指導教員巡回訪問の受け入れ可否の確認。
 - ・堺市のみ謝絶（電話対応となった）
- ・巡回指導訪問日 前日に再確認
感染媒介者とならないために・・・

学生に対する事前指導として

- ・日本養護教諭養成大学協議会
- ・日本健康相談活動学会

以上の学術・職能団体を中心として

学校教育現場の感染症対策、特に、養護教諭の学校環境対策

（保健室のゾーニング等）の情報発信を学生の事前指導に活用。

<学生への事前課題>

- ①地域教育委員会及び養護実習学校ホームページ情報分析
- ②緊急事態発令から学校再開までの実践例

6. 教職支援課の概要

教職支援課は本学教職課程を履修し、教員免許の取得を目指す学生を支援するとともに、免許状更新講習の実施等を通じて、社会的な貢献も果たすべく活動を行っている。

○ 教職支援課の支援体制について

教務部長を筆頭として、課室には教員 6 名・事務職員 4 名のスタッフを配置しており、学生相談及び各種事務業務にあたっている。

<2020 年度 教職支援課スタッフ>

教務部長	森 由紀	(人間科学部生活環境学科)	教授
	金延 重光	(文学部日本語日本文化学科)	講師
	赤井 悟	(文学部英語文化学科)	教授
	藤田 昌央	(人間科学部総合子ども学科)	教授
	曾我 佳子	(人間科学部総合子ども学科)	助教
	中野 順子	(人間科学部総合子ども学科)	助教
	他	事務職員	4 名

○ 教職支援課の利用について

原則として、利用は本学在学学生および卒業生のみとしており、月曜日から金曜日（祝祭日は除く）までの 9:00~18:00 の間、開室している。

※授業実施期間以外は 9:00~17:00 の開室としている。

窓口での相談については、事前予約制はとっておらず、相談希望者は開室時間中いつでも相談をすることができる。相談内容は、履修相談から実習関係、実習で使用するグッズの制作等、幅広く受け付けている。

また、課内には、全国自治体の教員・幼稚園・保育士採用試験問題集や参考書、絵本や手遊びに関する書籍・資料、雑誌等を設置しており、開室時間中は課のフリースペースでの閲覧が可能。書籍の貸出しは行っていないが、一部の書籍については本学図書館に同じ物を配架しているため、貸出し希望の場合は図書館配架の書籍を活用するように案内している。

※コロナ禍では、対面禁止、短縮開室、事前予約、オンライン相談など緊急事態宣言やあ蔓延防止の状況下に応じて変則的に対応

7. 教員の養成の状況についての情報

○教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

本学では、教員養成の目標や取り組みについて、大学全体および各学科・免許ごとに、以下の通り定めている。

[全学]

甲南女子大学は「まことの人間をつくる」を建学の精神とし、「全人教育・個性尊重・自学創造」を教育方針に掲げている。これらを基盤に、品格と国際性を備え、社会に貢献する高い志を持つ女性の育成を大学の使命としている。この建学の精神に基づき、教職課程では、幅広い視野と教養を身につけ、高度な専門性および教職への強い使命感を有する教員を養成することを目的としている。この目的を実現するために、本学では少人数教育および個々の学生に応じた教職支援を教員、教職支援センターが組織的、一体的に行っている。こうした支援を通じて、学生が自らの課題を見出し、明確な目的意識の下で専門性の向上に主体的に取り組み、生涯にわたって「学び続ける教師」の育成を目指している。

[文学部 日本語日本文化学科]

日本語日本文化学科では、正しい日本語と奥深い日本文化を基礎から幅広く学ぶことを教育課程編成・実施の方針としている。これに基づき、本学科の教職課程では、日本語、日本文学、日本文化について幅広い知識と深い教養を備えた国語科教員を養成することを目的とする。このため、本学科では、少人数制の演習を中心にさまざまな学習の機会を学生に与え、また各教員がきめ細やかに学生を指導することを通じて、教員にふさわしい資質の涵養を目指す。

[文学部 英語文化学科]

英語文化学科では、英語運用能力と言語・文化についての専門知識を十分に身につけた上で教育実践のできる英語教員の養成を目標としている。そのため、カリキュラムには多くの英語科目のほか、広範にわたる分野の専門研究科目を（選択）必修科目として置いている。教職課程と並行して、学科独自の「児童英語教員養成プログラム」の履修も推奨し、幼児・小学生への英語教育も視野に入れることのできる教員の養成を行っている。英語運用能力については、授業外でも e-space（自習スペース）における活動や学習相談などによってサポートし、さらなる伸長を目指している。

[文学部 多文化コミュニケーション学科]

多文化コミュニケーション学科では、グローバル社会の中で活躍できる実践的語学力として高い英語運用能力を身につけるとともに、異文化理解の基礎となる教養や知識の獲得、それを社会の中で貢献していく行動力を養うことを目的としている。これに基づき、本学科の教職課程では、「使える語学」としての英語力と共に、グローバル社会の中で

多様な背景を持つ人たちと積極的にコミュニケーションを取り、交流や仕事ができる人材を育成する。常に世界、日本社会の中での自分の役割について考え、そのために積極的に行動すると共に、教育現場の中でもそれらに関する高い意識と行動力を持った教員を養成することを目指す。

【国際学部 国際英語学科】

国際英語学科では、日常の英語運用能力、言語や文化の理解、グローバルビジネスなどの専門知識を身につけた中学校高等学校英語教員を養成する。そのためカリキュラムには、多くの英語関連科目のほか広範にわたる分野の専門研究科目を必修科目、選択科目として置いている。同時に授業外には、e-space（専任教員が常駐し、英語のみで活動する自習スペース、資料スペース）を設置し、生きた英語運用能力を育成している。また小学校の外国語（英語）導入に対応し、小学校教員免許の取得（神戸親和女子大学通信教育部との協定による）や学科独自の「児童英語教員養成プログラム」の履修を推奨している。

【人間科学部 心理学科】

心理学科では、人の行動や心理に関心を持ち、そのことに関して科学的態度で分析し説明することを志す学生の養成に努めている。したがって教員養成においては、教科科目の専門的知識の習得は当然のこととして、心理学を学んだ経験を活かし科学的見地から有効な教授方法を自ら工夫し活用できるようになることをめざす。加えて、生徒指導などにおいても心理学の知識を有効に活用し、生徒の理解・指導にたけた人材の育成を目的とする。

【人間科学部 総合子ども学科(幼稚園一種免許課程)】

総合子ども学科では、子どもの発達を総合的に捉える「子ども学」を中心に、広く教育現場で活躍できる高度な専門性を備えた人材の育成を目的としている。そのため、幼稚園教職課程では、子ども理解に基づいた総合的な指導力、豊富な現場体験を生かした高度な実践力、同僚との協働関係の構築を可能にするコミュニケーション能力、ならびに新たな教育課題に積極的に取り組む姿勢を有する教員の養成を目指す。

【人間科学部 総合子ども学科(小学校一種免許課程)】

総合子ども学科では、第1に、「まことの人間をつくる」という建学の精神に貫かれた学びを通じて、豊かな人間性と柔軟なコミュニケーション力を身につける。第2に、「子ども学」を軸とした多彩なカリキュラムを通じて、子どもを広く深く理解する。第3に、きめ細かい、丁寧な指導を通じて、高い専門性を身につけた「学び続ける教師」を目指す。以上の3つの観点を通じて、質の高い小学校教員養成に取り組む。

[人間科学部 文化社会学科]

文化社会学科では、身の回りで起こっているさまざまな社会現象に対して、自ら動いて情報を集め、集めた情報をもとに自分で答えを出し、その答えを人に向けて的確に伝えることのできる人材の育成を目指している。この方針に基づき、教職課程では、インタビューやアンケートなどの「取材」（社会調査）の手法を学ぶことを通して、社会に氾濫する情報の真偽を自分の目で確かめ、周囲の意見に流されない自分自身の考え方を的確に表現できる教員を養成することを目的としている。

[人間科学部 生活環境学科]

生活環境学科では、持続可能な社会の実現に向けて、幅広い視野に立ち、ヒトと生活環境を形成するモノ（衣・食・住）とコト（法・経済）に関する基本的知識とそれらの相互関係を、学際的かつ実践的に学ぶ。そして、変化し続ける社会に対応しながら、生活者としての責任を自覚し、自立した女性として、ライフスタイルを創造できる力を身につけさせるための「環境教育」に優れた教員を育成することを目標とする。

[看護リハビリテーション学部 看護学科]

看護学科では、看護学の専門性にのっとり、学校教育における幼児・児童・生徒及び教職員を対象とした学校保健活動と養護実践の基盤を培う。そのために、看護学の専門的知識・技術をベースに、1年次から4年次まで系統的に教職科目及び養護専門科目を配置する。また、4年次には、学校教育に関わる多職種と連携する基礎的・実践的知識の向上にむけて、学生が主体的に課題を探求するための演習を通して、生涯にわたって「学び続ける養護教諭」を養成することを目指している。

[医療栄養学部 医療栄養学科]

医療栄養学科では、栄養教育に関する高度専門知識ならびに技術を習得した管理栄養士が、国民の生涯にわたる食育推進に寄与することを理念とする。学校教育では、教科学習における食に関する指導の実践・普及を進めると共に、健康診断などと連携し個々の児童生徒の健康状況に見合った栄養教育を担う栄養教諭を養成する。

○2020(令和2)年度 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに各教員が担当する授業科目に関すること

[教員の養成に係る組織及び教員の数]

<学部>

教員の養成に係る組織・教員数

2020年度

(単位：人)

学部	学科	免許種	教育の基礎的理解に関する科目等				教科及び教科の指導法に関する科目				合計
			教授	准教授	講師	計	教授	准教授	講師	計	
文学部	日本語日本文化学科	中高	0	1	1	2	4	1	2	7	9
国際学部	国際英語学科	中高	0	1	1	2	4	3	2	9	11
人間科学部	総合子ども学科	小一	5	2	0	7	4	4	0	8	15

学部	学科	免許種	教育の基礎的理解に関する科目等				領域及び保育内容の指導法に関する科目				合計
			教授	准教授	講師	計	教授	准教授	講師	計	
人間科学部	総合子ども学科	幼一	6	2	0	8	2	3	0	5	13

学部	学科	免許種	教育の基礎的理解に関する科目等				養護に関する科目				合計
			教授	准教授	講師	計	教授	准教授	講師	計	
看護リハビリテーション学部	看護学科	養一	0	1	1	2	5	4	3	12	14

学部	学科	免許種	教育の基礎的理解に関する科目等				栄養に係る教育に関する科目				合計
			教授	准教授	講師	計	教授	准教授	講師	計	
医療栄養学部	医療栄養学科	栄一	0	1	1	2	1	0	0	1	3

専攻	コース	免許種	大学が独自に設定する科目			
			教授	准教授	講師	計
言語・文学専攻	日本語日本文学コース	中・高専修 [国語]	5	0	0	5
	英語英米文学コース	中・高専修 [英語]	3	1	0	4
心理・教育学コース	人間教育学コース	幼専修	4	2	0	6
	人間教育学コース	小専修	3	1	0	4

[各教員が有する学位及び業績]

本学 Web サイト上にて公開している。

http://www.konan-wu.ac.jp/dept_grad/teachers/

[授業の方法および内容並びに年間の授業計画]

本学 Web サイト上にてシラバスを公開している。

https://lily.konan-wu.ac.jp/campusweb/campusquare.do?_flowExecutionKey=_cD01FF288-4275-979B-685B-512FFA513A5C_ke6DE0AC2-D354-0431-342F-931FFEBB51

○教員の養成に係る教育の質の向上に係る取り組みに関すること

教員免許取得希望者に対し、神戸市教育委員会協力していただき、学内で神戸市学生スクールサポーター募集の説明会を開催しており、学生がスクールサポーターとして教育現場で活動できる環境を整えている。また、教育実習に先立って、学校でのボランティアに参加する仕組みも有している。さらに、一部授業科目で、教員経験者をゲストスピーカーとして招き、現場の声を聞くことができる内容とするなどしている。また、教職課程履修者が本学園併設の甲南女子中高等学校において授業見学をする機会も設けており、現場の教員との対話などを通じて、実践力を養う取り組みも行っている。

一方で、教職員が都道府県の実施する教員採用試験に係る説明会や、全国私立大学教職課程研究連絡協議会・阪神地区私立大学教職課程研究連絡協議会が実施する研究会やセミナー等に参加し、最新情報の収集や知識を深める努力を行っている。

編集・発行

甲南女子大学 教職支援課

2022年3月9日発行

〒658-0001

兵庫県神戸市東灘区森北町 6-2-23

T E L : 078-413-3095 / F A X : 078-413-3901

MAIL : kyomen@konan-wu.ac.jp

U R L : <http://www.konan-wu.ac.jp>